準備編

もくじ

もくじ **1**

本書をお読みになる前に **3**

1章 パソコンの準備 **4**

1 使う前に確認する **4**

2 初めて電源を入れてWindowsセットアップが終了したら **5**

3 ウイルスチェック／セキュリティ対策を行う **7**

1 ウイルスバスタークラウド™を使う 8
2 Windows セキュリティで状態を確認する 10

4 パソコンを最新の状態に保つ **11**

1 Windowsや当社製ソフトウェアなどをアップデートする 11

5 リカバリーメディアを作る （dynabook リカバリーメディアクリエーター） **12**

1 リカバリーメディアに使用できる記録メディア 13
2 インストールについて 13
3 リカバリーメディアを作成する 14

6 アプリケーションを追加／削除する **16**

1 アプリケーションの追加（インストール） 16
2 アプリケーションの削除（アンインストール） 17
3 アプリケーションの再インストール 19

7 デバイスの暗号化の回復キーを確認する **21**

8 お客様登録（COCORO MEMBERS）の手続き **23**

2章 パソコンの動作がおかしいときは **25**

1 トラブルを解消するまでの流れ **25**

2 パソコンの動作がおかしいときの対処方法 **27**

3 バックアップをとる 28

1 ファイルやフォルダーのバックアップをとる 29
2 バックアップ用に使用できる記録メディア 31
3 バックアップ方法 31

4 バックアップをとる（Windowsが起動しないとき） 32

1 dynabook ファイルレスキューについて 32

5 個人用ファイルを保持して、初期状態に戻す（回復） 36

1 操作前に行うこと 37
2 個人用ファイルを保持する 38

6 パソコンを診断し、トラブルを解決する 39

1 「dynabook サービスステーション」で診断する 39
2 Windowsの「トラブルシューティング」で調べる 40

3章 Q&A集 42

1 Q&A集 42

1 電源 42
2 画面／表示 45
3 システムおよびハードディスク／SSD 46
4 バッテリー 47
5 キーボード 47
6 タッチパネル／タッチパッド／マウス 48
7 メモリ 49
8 TPM（Trusted Platform Module） 49
9 Intel® PTT 49
10 メッセージ 50
11 その他 52

付録 54

1 無線LAN／Bluetooth®について 54

1 無線LANの規格 54
2 無線LANのサポートする周波数帯域 55
3 Bluetooth®の仕様 57
4 使用上のご注意 58
5 無線特性 59
6 無線LANモジュールの確認 60
7 機器認証表示について 62
8 お知らせ 62
9 使用できる国／地域について 63

本書をお読みになる前に

本製品を安全に正しく使うために、次のマニュアルもあわせてお読みください。
マニュアルの内容は、改善のため予告なしに変更することがあります。

参照先	編名称	内容
付属の冊子および『オンラインマニュアル』または当社ホームページ「dynabook.com」	安心してお使いいただくために	本製品を使用する際の重要な情報や、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全にお使いいただくために、守っていただきたい事項について説明しています。 ＊**本製品を使用する前に、必ずお読みください。**
『オンラインマニュアル』または当社ホームページ「dynabook.com」	取扱説明書	各部の名称や接続方法、電源の入れかた／切りかたなど、本製品の基本的な使用方法について説明しています。本製品を初期状態に戻す方法やサポート情報についても説明しています。

- スタイルを変更できるモデルで、キーボードの操作を行う場合は、ノートPCスタイルにセットして行ってください。

1章 パソコンの準備

初めてパソコンを使う前に確認していただきたいことや、リカバリーメディアの作成などについて説明しています。

1 使う前に確認する

■型番と製造番号を確認

本製品の裏面などに型番と製造番号が記載されています。保証書に同じ番号が記載されていることを確認してください。番号が違う場合や不備があった場合は、dynabook あんしんサポートにお問い合わせください。

参照 型番と製造番号の記載位置『取扱説明書 1章 パソコンの取り扱い 「裏面図」』

■保証書は大切に保管

故障やトラブルが起こった場合、保証書があれば保証期間中（保証期間については保証書を確認してください）は当社の無料修理サービスが受けられます。
保証書に記載の内容を読んで、確認したあと、大切に保管してください。

■海外保証を受けるには

海外保証対象モデルのみ
海外で使用するときは「海外保証（制限付）」（ILW:International Limited Warranty）により、海外の所定の地域で、保証書に記載の無料修理規定および制限事項・注意事項の範囲内で修理サービスを利用できます。
ご購入のモデルが「海外保証（制限付）」の対象かどうかは、保証書を確認してください。

参照 利用方法や保証の詳細
『取扱説明書』の「サービス＆サポートのご案内」、および保証書に記載の無料修理規定

お願い **リリース情報について**

「リリース情報」には、本製品を使用するにあたっての注意事項などが記載されています。
次の操作を行うと表示されます。

①タスクバーにある検索ボックスに「リリース情報」と入力する
②検索結果に表示される［リリース情報］をクリックする

2 初めて電源を入れてWindowsセットアップが終了したら

初めて本製品の電源を入れて、Windowsセットアップが終了したら（Windowsが使えるようになったら）、次のことを行ってください。

参照 初めて電源を入れて、Windowsセットアップを行う『スタートアップガイド』

■ウイルスチェック／セキュリティ対策を行う

コンピューターウイルスの感染や不正アクセスからパソコンを保護するため、ウイルスチェック／セキュリティ対策を行ってください。

モデルによっては、「ウイルスバスタークラウド™」（体験版）が用意されています。

参照「ウイルスバスタークラウド™」の利用方法「体験版を利用する（8ページ）」

■Windowsや当社製ソフトウェアなどをアップデートする

Windowsや当社製ソフトウェアなどには、システムの不具合やセキュリティ上の脆弱性に対応するために、更新プログラムが用意されることがあります。その都度、アップデートを行ってください。

参照「パソコンを最新の状態に保つ（11ページ）」

■リカバリーメディアを作成する

＊dynabook リカバリーメディアクリエーター搭載モデルのみ

リカバリーメディアを作成しておくことを強くおすすめします。

リカバリーメディアとは、システムやアプリケーションをご購入時の状態に復元（リカバリー）するためのものです。

参照 リカバリーメディアについて「リカバリーメディアを作成する（14ページ）」

■お客様登録（COCORO MEMBERS）に登録する

「COCORO MEMBERS」にご登録（お客様登録）していただくことで、専用のサービスやサポートを受けることができるようになります。

参照「お客様登録（COCORO MEMBERS）の手続き（23ページ）」

■Officeをセットアップする

Microsoft 365 Personal、Microsoft 365 1か月無料試用版、またはOffice Home & Business 2024を使用するには、インターネットに接続して、Microsoft アカウントでのサインインが必要です。

参照「Office」について『取扱説明書』

■ワイヤレスマウスを使う

＊ワイヤレスマウス付属モデルのみ

ワイヤレスマウスの中からマウスレシーバーを取り出して、パソコンに接続する必要があります。

参照 ワイヤレスマウスの準備『取扱説明書』

■デバイスの暗号化の回復キーを確認する

＊デバイスの暗号化対象モデルのみ

デバイスの暗号化が有効に設定されている場合、Microsoft アカウントでWindows 11にサインインすると、暗号化によるデバイスの保護が自動的に有効になります。

暗号化による保護が有効になったパソコンでは、デバイスの暗号化の回復キーの入力を求められることがあります。

事前にデバイスの暗号化の回復キーを確認し、控えておいてください。

参照 「回復キーを確認する（21ページ）」

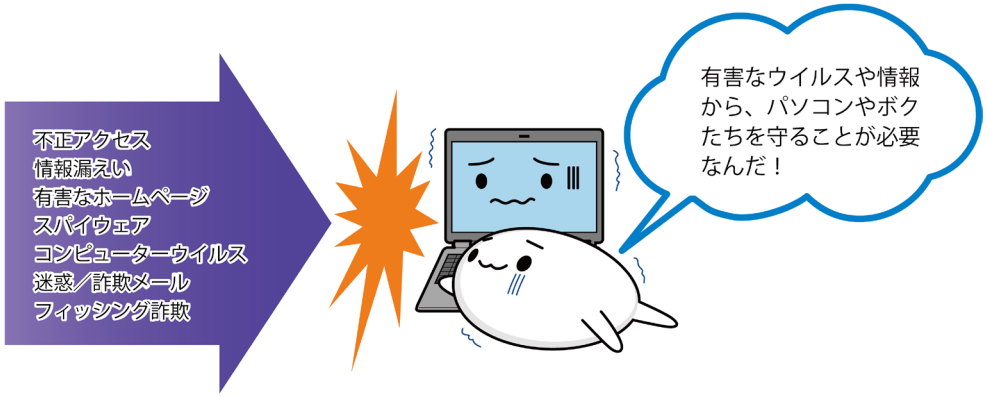
3 ウイルスチェック／セキュリティ対策を行う

インターネットを利用すると、いろいろな情報を見ることができて大変便利です。しかしその反面、インターネット上には次のような有害なものが存在します。

- コンピューターウイルス
  パソコンに侵入し、パソコン内に保存してあるデータを破壊するなどの悪質なふるまいを行います。
- スパイウェア
  パソコンに侵入し、パソコン内の情報（氏名やパスワード、ホームページの閲覧履歴など）を盗み出し、第三者に流出させます。
- 有害サイト
  お子様に適さないサイトやウイルスに感染しているサイトなど、ユーザーに悪影響を与えるおそれがあるサイトです。

コンピューターウイルスは、インターネットや、メールに添付されたファイルを介してパソコンに入り込んでしまうことがあります。
コンピューターウイルスに感染すると、次のようなことが起こる可能性があります。

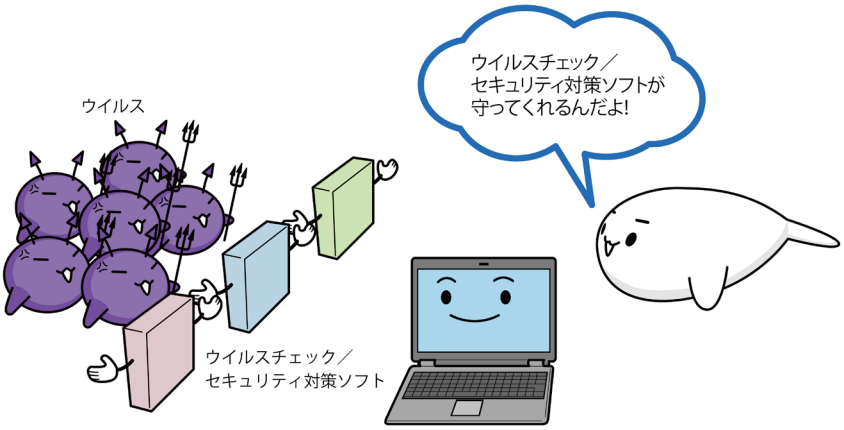
- パソコンのデータが破壊され、パソコンが使用できなくなる
- インターネットを経由して、パソコン内の個人情報にアクセスされる



1 ウイルスバスタークラウド™を使う

＊ウイルスバスタークラウド™搭載モデルのみ

「ウイルスバスタークラウド™」は、個人情報保護、コンピューターウイルスの発見、駆除、ネットワークセキュリティ対策ができるアプリケーションです。
必要に応じて体験版をお使いください。



1 体験版を利用する

本製品に用意されている「ウイルスバスタークラウド™」は、90日間の使用期限がある体験版です。
Windowsセットアップで［使用許諾契約に同意しウイルスバスターの利用を開始します。］をチェックしたか／していないかによって、利用を開始する手順が異なります。

- Windowsセットアップで［ウイルスバスターの利用を開始します。］をチェックした場合
  Windowsセットアップが終了してから約1時間後に、「ウイルスバスタークラウド™」が起動します。

- Windowsセットアップで［ウイルスバスターの利用を開始します。］をチェックしなかった場合
  Windowsセットアップが終了してから約1時間後に、「ウイルスバスタークラウド™」の［ようこそ］画面が表示されます。［同意して次へ］ボタンをクリックして、利用を開始してください。

どちらの場合も、メールアドレスの入力画面が表示されます。メールアドレスを入力して［完了］ボタンをクリックしてください。その後、画面の指示に従って操作を行ってください。

＊モデルによっては、Windowsセットアップで［使用許諾契約に同意しウイルスバスターの利用を開始します。］が表示されません

ヘルプの起動

ヘルプを見るためには、インターネットに接続する必要があります。

1. 通知領域の［ウイルスバスタークラウド］アイコン（ ）をダブルクリックする

＊通知領域にアイコンが表示されていない場合は、 をクリックしてください。

［ウイルスバスタークラウド™］画面が表示されます。

2. ［ヘルプとサポート情報］ボタン（ ）をクリックし①、［ヘルプとサポート情報］をクリックする②



（表示例）

「ウイルスバスタークラウド™」のサポート画面が表示されます。

参照 ウイルスバスタークラウド™のお問い合わせ先について
『取扱説明書 3章 アプリケーション／ユーティリティ』

2 ウイルスバスタークラウド™以外を使用する場合

本製品に用意されている「ウイルスバスタークラウド™」以外のウイルスチェック／セキュリティ対策ソフトを使用する場合は、「ウイルスバスタークラウド™」をパソコンからアンインストール（削除）してから、ほかのウイルスチェック／セキュリティ対策ソフトをインストールしてください。

参照 「アプリケーションを追加／削除する（16ページ）」

2 Windows セキュリティで状態を確認する

インターネットを使っていると、スパイウェアなどにより個人情報が盗まれたりすることがあります。
「Windows セキュリティ」は、スパイウェアや、パソコンの性能を低下させるアプリケーションの実行を防ぐ、Windows標準の機能です。

下記の機能について、設定の確認および変更を行うことができます。

- アカウントの保護
- ファイアウォールとネットワーク保護
- アプリとブラウザー コントロール
- デバイスのセキュリティ
- デバイスのパフォーマンスと正常性
- ファミリーのオプション
- 保護の履歴

1. **［スタート］ボタン（ ）をクリックする**

2. **［設定］をクリックする**

3. **［プライバシーとセキュリティ］→［Windows セキュリティ］をクリックする**

4 パソコンを最新の状態に保つ

Windowsや当社製ソフトウェアなどには、システムの不具合やセキュリティ上の脆弱性に対応するために、更新プログラムが用意されることがあります。その都度、アップデートを行ってください。

1 Windowsや当社製ソフトウェアなどをアップデートする

「Windows Update」は、マイクロソフト株式会社が用意した更新プログラム、デバイスドライバーの更新、および当社PCのBIOSの更新をインターネット経由でインストールするための機能です。
マイクロソフト株式会社は、システムの不具合や新たなセキュリティ上の脅威に対応するため、更新プログラムを用意することがあります。更新プログラムをインストールすることで、Windowsを最新の状態に保ち、セキュリティ上の安全性を高めることができます。

購入時の設定の場合、重要な更新プログラムと推奨される更新プログラムは、「Windows Update」の「自動更新」でインターネットからダウンロードされ、インストールされます。
その他にも、機能を追加したり、アプリケーションの不具合を修正したりするための更新プログラムがありますが、「自動更新」ではインストールされません。
「Windows Update」を使用して手動でインストールしてください。
また、アプリケーションの更新はMicrosoft Storeから提供されます。購入時の設定の場合、「アプリ更新」の設定はオンになっており、アプリケーションの更新は自動的に適用されます（適用されるまでには時間がかかる場合があります）。

1 Windows Updateを手動で行う

「Windows Update」を手動で行う方法を説明します。

1. **［スタート］ボタン（ ）をクリックする**
2. **［設定］をクリックする**
3. **［Windows Update］をクリックする**
4. **画面右上に、［更新プログラムのチェック］、［今すぐインストール］、［今すぐダウンロード］など、青いボタンが表示されている場合はクリックする**

   更新プログラムがある場合、更新プログラムのダウンロードとインストールが開始されます。
5. **画面右上に、［今すぐ再起動する］の青いボタンが表示されている場合はクリックする**

   パソコンが再起動します。
6. **［Windows Update］画面に「最新の状態です」と表示されていることを確認する**

5 リカバリーメディアを作る（dynabook リカバリーメディアクリエーター）

＊dynabook リカバリーメディアクリエーター搭載モデルのみ

パソコンにトラブルが発生したときに、パソコンを購入時の状態（初期状態）に戻すことを「リカバリー」といいます。

参照 リカバリーの詳細『取扱説明書 2章 パソコンを再セットアップするには』

本製品のハードディスク／SSDには、システムやアプリケーションを購入時の状態に戻すためのリカバリーツールが搭載されていますが、トラブルの原因によっては、リカバリーツールが起動できないこともあります。
このような場合に備え、リカバリーDVD-ROMが付属していない場合は、あらかじめリカバリーメディアを作成することをおすすめします。
ハードディスク／SSDからリカバリーができない場合でも、リカバリーメディアからリカバリーができます。

リカバリーメディアの作成は、「dynabook リカバリーメディアクリエーター」で行います。
作成したリカバリーメディアは大切に保管してください。

Memo

- リカバリーメディアを作成しておらず、ハードディスク／SSDからもリカバリーが行えない場合は、修理が必要になることがあります。
  dynabook あんしんサポート 修理相談窓口に相談してください。

■リカバリーを行うと

リカバリーを行うと、パソコン購入後に作成したデータ（文書ファイル、画像・映像ファイル、メールやアプリケーションなど）はすべて消去され、設定した内容（インターネットやメールの設定、Windowsパスワードなど）も購入時の状態に戻ります。
万が一に備え、データのバックアップは、普段から定期的に行っておくことをおすすめします。

1 リカバリーメディアに使用できる記録メディア

「dynabook リカバリーメディアクリエーター」では、次の記録メディアのいずれかを使用できます。
何もデータが書き込まれていないものを用意してください。

記録メディア	必要な容量、枚数など
USB フラッシュメモリ	最低限必要な容量が[リカバリーメディアクリエーター]画面に表示されます。表示される容量より大きい容量のUSBフラッシュメモリを用意してください。
記録用のブルーレイディスクメディア*1*2 (BD-R、BD-R DL、BD-RE、BD-RE DL)	必要な枚数が[リカバリーメディアクリエーター]画面に表示されます。複数枚使用するときは、同じ規格の記録メディアで統一してください。
記録用のDVDメディア*2 (DVD-R、DVD-R DL、DVD-RW、DVD+R、DVD+R DL、DVD+RW)	

＊1 ブルーレイディスクドライブ搭載モデルのみ
＊2 パソコン本体にブルーレイディスクドライブ／DVDスーパーマルチドライブを搭載していないモデルの場合は、外付けの書き込み可能なDVD／ブルーレイディスクドライブ(市販品)を接続すると、DVD／ブルーレイディスクを使用できます。
ただし、すべての外付けDVD／ブルーレイディスクドライブでの動作を保証するものではありません。

お願い **DVD／ブルーレイディスクについて**

- 推奨するメーカーのDVD／ブルーレイディスクを使用してください。規格に準拠したDVD／ブルーレイディスクを使用してください。

参照 パソコン本体にブルーレイディスクドライブ／DVDスーパーマルチドライブを搭載しているモデルの場合
『取扱説明書』の「記録メディアについて」

参照 外付けのDVD／ブルーレイディスクドライブ（市販品）を使用する場合
『DVD／ブルーレイディスクドライブに付属している説明書』

- 「dynabook リカバリーメディアクリエーター」ではDVD-RAM、BD-R XL（3層）、BD-RE XL（3層）を使用できません。

お願い **リカバリーメディアの作成にあたって**

- 「dynabook リカバリーメディアクリエーター」を使ってリカバリーメディアを作成するときは、ほかのアプリケーションソフトをすべて終了させてから、行ってください。
また、電源コードとACアダプターを使用してパソコン本体を電源コンセントに接続した状態で作成してください。本製品の省電力機能が働かないようにしてください。電源OFF／スリープ／休止状態／再起動を実行しないでください。

2 インストールについて

「dynabook リカバリーメディアクリエーター」が、購入時の状態でインストールされていない場合は、インストールしてご利用ください。

参照 インストール方法「アプリケーションの追加（インストール）（16ページ）」

3 リカバリーメディアを作成する

「dynabook リカバリーメディアクリエーター」でリカバリーメディアを作成する手順を説明します。

外付けのDVD／ブルーレイディスクドライブ（市販品）でDVD／ブルーレイディスクのリカバリーメディアを作成する場合は、あらかじめDVD／ブルーレイディスクドライブをパソコン本体に接続しておいてください。

参照 接続方法『DVD／ブルーレイディスクドライブに付属している説明書』

1. 電源コードとACアダプターを接続する

2. タスクバーにある検索ボックスに「dynabook リカバリーメディアクリエーター」と入力する

3. 検索結果に表示される［dynabook リカバリーメディアクリエーター］を右クリックし、［管理者として実行］をクリックする

「dynabook リカバリーメディアクリエーター」が起動します。

4. ［タイトル］、［メディア］を選択する

USBフラッシュメモリの容量や必要なDVD／ブルーレイディスクの枚数が表示されるので、用意してください。



（表示例）

タイトル
チェックボックスにチェックがついている（☑）リカバリーメディアを作成します。
作成する必要のないリカバリーメディアは、チェックをはずしてください。

メディア
作成する記録メディアの種類を選択します。

DVD／ブルーレイディスクの場合、画面に表示される枚数分が必要になります。
USBフラッシュメモリの場合、画面に表示される容量が必要になります。

5. ［作成］ボタンをクリックする

作成するリカバリーメディアの確認と記録メディアのセットを求める画面が表示されます。

6. USBフラッシュメモリ、DVD／ブルーレイディスクのいずれかをセットする

参照 DVD／ブルーレイディスクのセット
『活用編 1章 パソコンの機能を活用する』、
『DVD／ブルーレイディスクドライブに付属している説明書』
参照 USBフラッシュメモリ『活用編 1章 パソコンの機能を活用する』

7. 以降は、画面の指示に従って操作する

作成が開始されるまで、時間がかかる場合があります。しばらくお待ちください。作成が開始されると、画面に進行状況が表示されます。
作成を途中で中止する場合は、［キャンセル］ボタンをクリックしてください。
DVD／ブルーレイディスクの場合、作成が終了すると、記録メディアが自動的に出てきます。作成するメディアが複数枚ある場合は、メッセージに従って記録メディアを入れ替えてください。
リカバリーメディア作成後、「HDDリカバリーデータを削除しますか？」というメッセージが表示された場合は［キャンセル］をクリックしてください。

Memo

- リカバリーメディアはメディアを作成したパソコンでのみ使用できます。
- リカバリーメディアに他のデータを保存しないようにしてください。
- 作成したリカバリーメディアには、次のことがわかるように目印をつけてください。
  - ・「リカバリーメディア」であること
  - ・複数枚ある場合は、番号

  たとえばDVD／ブルーレイディスクの場合、「リカバリーメディアXX（番号）」というように、レーベル面に油性のフェルトペンなどで記載してください。
  リカバリーをするとき、この番号の順にリカバリーメディアを使用しないと、正しくリカバリーされません。必ずリカバリーメディア番号がわかるようにして保管してください。

参照 リカバリーメディアからパソコンを初期状態に戻す
『取扱説明書 2章 2 パソコンを初期状態に戻す （リカバリー）』

ヘルプの起動方法

「dynabook リカバリーメディアクリエーター」の詳細は、ヘルプを参照してください。

1. 「dynabook リカバリーメディアクリエーター」を起動後、［ヘルプ］をクリックする

6 アプリケーションを追加／削除する

アプリケーションをパソコンに追加する方法（インストール）、アプリケーションをパソコンから削除する方法（アンインストール）、本製品にプレインストールされているアプリケーションを再インストールする方法について説明しています。

1 アプリケーションの追加（インストール）

必要なファイルなどをパソコンに追加して、アプリケーションを使えるようにすることをインストールといいます。
また、ご購入時にあらかじめインストールされていることをプレインストールといいます。
アプリケーションのインストールは、コンピューターの管理者アカウントで行います。

本製品に用意されているアプリケーション

ご購入時にプレインストールされている場合は、インストールの必要はありません。
インストールが必要なアプリケーションの場合は、マニュアルの説明に従ってインストールを行ってください。

Memo

- 本製品に用意されているアプリケーションは、いったん削除した場合でも、再インストールして使用することができます。

参照 アプリケーションの再インストール「アプリケーションの再インストール（19ページ）」

お客様が用意されているアプリケーション

お客様が購入したアプリケーションなどは、お客様ご自身でインストールを行ってください。

参照 インストール方法『アプリケーションのヘルプ』、『アプリケーションに付属している説明書』

お願い

アプリケーションの追加や削除を行う前に必ずデータを保存し、その他のアプリケーションを終了させてください。アプリケーションを終了しないで追加や削除を行うと、データが消失するおそれがあります。

2 アプリケーションの削除（アンインストール）

アプリケーションを削除することを、アンインストールといいます。
本製品に用意されているアプリケーションは、いったんアンインストールした場合でも、再インストールして使用することができます。
参照 アプリケーションの再インストール「アプリケーションの再インストール（19ページ）」

アプリケーションをアンインストールする方法を説明します。
アプリケーションのアンインストールは、コンピューターの管理者アカウントで行います。
削除しても問題ないアプリケーションかどうかをよく確認してから、アンインストールを行ってください。

お願い
- アプリケーションの追加や削除を行う前に必ずデータを保存し、その他のアプリケーションを終了させてください。アプリケーションを終了しないで追加や削除を行うと、データが消失するおそれがあります。

1 検索結果から削除する

1. タスクバーにある検索ボックスに、削除したいアプリケーション名を入力する

2. 検索結果に表示される該当アプリケーションを右クリックして、表示されたメニューから［アンインストール］をクリックする

［プログラムと機能］画面が表示された場合は、一覧からアプリケーションを選択して［アンインストール］をクリックし、表示されるメッセージに従って操作してください。

Memo
- メニューに［アンインストール］が表示されないアプリケーションは、削除（アンインストール）できません。

3. ［アンインストール］をクリックする

2 ［設定］のアプリ一覧から削除する

1. ［スタート］ボタン（）をクリックする
2. ［設定］をクリックする
3. ［アプリ］→［インストールされているアプリ］をクリックする
4. 表示されたアプリの一覧から、削除したいアプリケーションの右側の ･･･ をクリックし、表示されたメニューから［アンインストール］をクリックする

Memo
- メニューの［アンインストール］が選択できないアプリケーションは、削除（アンインストール）できません。

5. ［アンインストール］をクリックする

Memo
- アプリケーションによっては、アンインストールするためのユーティリティ（アンインストーラ）が用意されています。
  削除したいアプリケーションが一覧にないときは、アンインストーラを使用して削除できる場合があります。

  参照 アンインストーラの詳細
  『アプリケーションのヘルプ』、『アプリケーションに付属している説明書』

3 アプリケーションの再インストール

＊アプリケーションの再インストール機能搭載モデルのみ

本製品に用意されているアプリケーションが、購入時の状態でインストールされていない場合は、アプリケーションの再インストールを行ってください。
また、本製品に用意されているアプリケーションやドライバーは、一度削除しても、必要なときに再インストールできます。

同じアプリケーションがすでにインストールされているときは、アンインストールを行ってください。
アンインストールを行わずに再インストールを実行すると、正常にインストールできない場合があります。ただし、アンインストールが実行できないアプリケーションは、上書きでインストールしても問題ありません。

参照 「アプリケーションの削除（アンインストール）（17ページ）」

1 操作手順

アプリケーションによっては、あらかじめインターネットに接続しておく必要があります。
参照 LAN機能を使ってインターネットに接続するには『活用編 1章 パソコンの機能を活用する』

1. タスクバーにある検索ボックスに「アプリケーションの再インストール」と入力する

2. 検索結果に表示される［アプリケーションの再インストール］をクリックする

3. ［セットアップ画面へ］をクリックする

アプリケーションやドライバーのセットアップメニュー画面が表示されます。アプリケーションやドライバーのセットアップメニューは、カテゴリごとのタブに分かれています。

4. タブをクリックして、再インストールしたいアプリケーションを探す



（表示例）

画面左側にはアプリケーションの一覧が表示されています。アプリケーションをクリックすると、画面右側に説明が表示されますので、確認してください。

5. 画面左側のアプリケーション名を選択し、画面右側の［「XXX」のセットアップ］をクリックする

「XXX」にはアプリケーション名が入ります。

6. 表示されるメッセージに従ってインストールを行う

［開く］または［実行］ボタンをクリックしてください。

Memo

- ［アプリケーションの再インストール］にないアプリケーションは、「Microsoft Store」からダウンロードできる場合があります。
  「Microsoft Store」は、インターネットに接続した状態で、タスクバーの［Microsoft Store］（ ）をクリックします。アイコンが見つからない場合は、検索ボックスに「Microsoft Store」と入力し、検索結果から起動してください。

7 デバイスの暗号化の回復キーを確認する

＊デバイスの暗号化対象モデルのみ（ただし、Microsoft アカウントでのサインインが必要です）

Memo お使いのパソコンがデバイスの暗号化対象モデルであるかどうかは、次の手順で確認してください。

①［スタート］ボタン（ ）→［設定］→［プライバシーとセキュリティ］をクリックする
画面内［セキュリティ］の項目に［デバイスの暗号化］が表示されている場合、デバイスの暗号化対象モデルです。

暗号化による保護が有効になったパソコンでは、デバイスのロックを解除するために回復キーの入力を求められることがあります。
回復キーの入力が求められた場合は、デバイスの暗号化の回復キー（BitLocker回復キー）を入力して、デバイスのロックを解除してください。
デバイスの暗号化の回復キーは、あらかじめ確認して控えておく必要があります。

回復キーとは

回復キーは、暗号化されたドライブのロックを解除するために使用する48桁の数字です。Microsoft アカウントなどに保存されています。あらかじめ回復キーを確認し、次のいずれかの方法で大切に保管してください。

- USBフラッシュメモリなどの記録メディアに保存する
- 回復キーが表示されたページを印刷する
- メモ用紙などに書きとめる

回復キーを確認する

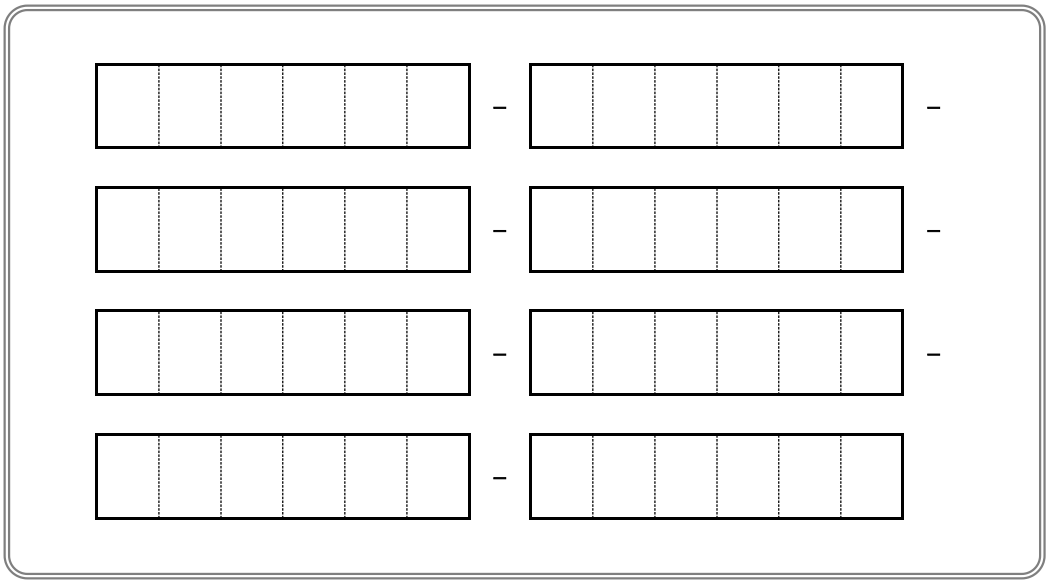
回復キーをUSBフラッシュメモリに保存したり、印刷したりできます。

■デバイスの暗号化の回復キーを確認する

詳細は、次のホームページを参照してください。
https://dynabook.com/assistpc/faq/pcdata3/019318.htm

回復キーを控える

本ページを印刷してから、次の「回復キー記入欄」に回復キーを記入してください。



8 お客様登録（COCORO MEMBERS）の手続き

当社では、お客様へのサービス・サポートのご提供の充実をはかるために「COCORO MEMBERS」にご登録（お客様登録）をお願いしております。
dynabook あんしんサポート 使いかた相談窓口のご利用にあたっては、事前に「COCORO MEMBERS」にご登録（お客様登録）していただくことが必要です。

1 インターネットに接続してお客様登録する

インターネットに接続して、次の手順で「COCORO MEMBERS」に登録してください。インターネットに接続している間の通信料金やプロバイダー使用料などの費用はお客様負担となりますので、あらかじめご了承ください。

1. タスクバーにある検索ボックスに「dynabook お客様登録」と入力する

2. 検索結果に表示される［dynabook お客様登録］をクリックする

3. ［新規会員登録］をクリックする

登録用のホームページが表示されます。
以降は、画面の指示に従って操作してください。

Memo

- 次のURLから、登録用のホームページにアクセスすることもできます。
  COCORO MEMBERSホームページ https://cocoromembers.jp.sharp
- すでに会員登録がお済みの場合は、「MY家電管理」から、お買い上げの製品を登録してください。

2 インターネットをご利用されていない場合

インターネットをご利用されていないお客様の「COCORO MEMBERS」登録につきましては、dynabook あんしんサポート 使いかた相談窓口へご相談ください。

3 引っ越したときの手続きについて

次の変更を行ってください。

■インターネットに接続する設定を変更する

インターネットに接続する設定を、引っ越し後にお使いになる環境に合わせて変更してください。

詳しくは、契約しているプロバイダーにお問い合わせください。

■「COCORO MEMBERS」にて登録した住所、電話番号などを変更する

ホームページで登録情報の変更の手続きをしてください。

①インターネットで（https://cocoromembers.jp.sharp）に接続する

②ページ右上の［ログイン］をクリックする

③「COCORO MEMBERS」にて登録したメールアドレスと、パスワードを入力し、［規約に同意してログイン］ボタンをクリックする

④［MYページ］→［ご登録情報の変更］をクリックする

⑤［会員情報変更］をクリックする

⑥登録情報を修正する

「COCORO MEMBERS」にて登録したメールアドレス、パスワードを変更する場合は、MYページの［ご登録情報の変更］画面で［メールアドレス・パスワード変更］をクリックし、画面の指示に従って操作してください。

■プロバイダーやアプリケーションのユーザー登録情報を変更する

契約しているプロバイダーや各アプリケーションのユーザー登録情報などを変更することを推奨します。

詳しくは、各登録先にお問い合わせください。

2章 パソコンの動作がおかしいときは

パソコンの操作をしていて困ったときに、どうしたら良いかを説明しています。
トラブルが起こったときは、この章を読んで対処方法を探してみてください。

1 トラブルを解消するまでの流れ

トラブルが発生したときの対処手順を紹介します。

STEP①本書を読んでみる

本書では、トラブルが発生した場合の対処方法を説明しています。

参照 「パソコンの動作がおかしいときの対処方法（27ページ）」、「Q&A集（42ページ）」

STEP②本製品のマニュアルを検索してみる

マニュアルによって、参照方法が異なります。

参照 マニュアルの種類について
『取扱説明書』の巻頭「2 本製品のマニュアル構成について」

■『オンラインマニュアル』を参照する

①タスクバーにある検索ボックスに「オンラインマニュアル」と入力する
②検索結果に表示される［オンラインマニュアル］をクリックする

■当社ホームページ「dynabook.com」を参照する

①インターネットに接続できる環境から、以下のURLをクリックする
マニュアルダウンロード（発表年別製品一覧）
URL：https://dynabook.com/manual_download/index.html

STEP③サポートのサイトで調べる

当社の「dynabook サポート」（https://dynabook.com/assistpc/index_j.htm）へ接続すると、各種サポート情報から解決方法を探すことができます。
「dynabook サポート」では、ご利用のパソコンの「よくあるご質問 FAQ」、デバイスドライバーや修正モジュールのダウンロード、ウイルス・セキュリティ情報などをご覧になれます。
サポート窓口や修理についても案内しています。

STEP 4 それでもトラブルが解決しない場合は問い合わせる

- パソコン本体のトラブルの場合
  dynabook あんしんサポートにご連絡ください。
- OSやアプリケーションのトラブルの場合
  本製品に用意されているOS、アプリケーションのトラブルの場合は、各アプリケーションのサポート窓口にお問い合わせください。

参照 OSやアプリケーションのお問い合わせ先『取扱説明書』

- 周辺機器のトラブルの場合
  各周辺機器のサポート窓口にお問い合わせください。

参照 周辺機器のお問い合わせ先『周辺機器に付属している説明書』

2 パソコンの動作がおかしいときの対処方法

パソコンの動作がおかしいと感じたときは、次の方法を実行してください。

■パソコンを再起動したり、完全にシャットダウンする

パソコンの動作が不安定になった場合（パソコンの動作が遅い、アプリケーションが起動できない場合など）は、再起動したり、SHIFTキーを押しながら電源を切る（完全にシャットダウンする）と、トラブルが解消される場合があります。
また、トラブルの予防にもなりますので、定期的にパソコンを再起動することをおすすめします。

参照 再起動の方法について『取扱説明書 1章 3 電源を切る／再起動／スリープ』

■ウイルスチェック／セキュリティ対策ソフトでチェックを実行する

ウイルスが検出されたら、ウイルスチェック／セキュリティ対策ソフトで駆除できます。
チェックを実行する際、パターンファイルは、最新のものに更新しておいてください。
＊パターンファイルで対応していないウイルスは、駆除できない場合があります。

■周辺機器をすべて取りはずし、再度確認する

購入後に増設した機器が原因の可能性があるため、それらを取りはずしてから再起動してください。電源関連のトラブルの場合は、パソコンの電源を切り、電源コードとACアダプター、バッテリーパック*1をいったん取りはずし、再度取り付けてから起動し直してください。
＊1 バッテリーパック搭載モデルのみ

■「システムの復元」で以前の状態に復元する

「システムの復元」は、パソコンに問題が発生したときに、個人用のデータを失わずにパソコンを以前の状態に復元するための機能です。

参照「システムの復元」機能「Windowsの「トラブルシューティング」で調べる（40ページ）」

Memo 購入時にプレインストールされていたアプリケーションやドライバーを誤って削除してしまった場合は、アプリケーションやドライバーの再インストールを行うことをおすすめします。

参照 再インストール方法「アプリケーションの再インストール（19ページ）」

▼ それでも改善しない場合

■パソコンを初期状態に戻す

パソコンを初期状態に戻すには、次の2つの方法があります。

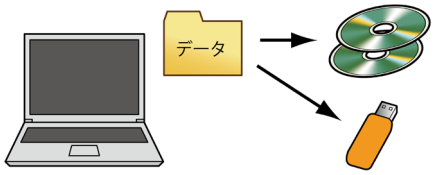
- 個人用ファイルを保持して、初期状態に戻す（回復）
- 現在の設定をすべて削除し、ご購入時の状態に戻す（リカバリー）

いずれの場合も、大切なデータはあらかじめバックアップをとってから操作を始めてください。

参照「バックアップをとる（Windowsが起動しないとき）（32ページ）」
参照「個人用ファイルを保持して、初期状態に戻す（回復）（36ページ）」
参照 リカバリーチェックシート『取扱説明書』

3 バックアップをとる

保存したファイルやフォルダーを誤って削除してしまったり、パソコンのトラブルなどによってファイルが使えなくなってしまうことがあります。
このような場合に備えて、あらかじめファイルをDVDやUSBフラッシュメモリなど、ハードディスク／SSD以外の記録メディアにコピーしておくことをバックアップといいます。



大切なデータは、こまめにバックアップをとってください。
参照 具体的なデータのバックアップ方法「データのバックアップをとる（31ページ）」

お願い **バックアップをとるにあたって**

- ユーザー名がリカバリー後／初期状態に戻した後と異なる場合、バックアップをとったデータが復元できない場合があります。リカバリー前／初期状態に戻す前にユーザー名を控えてください。

参照 リカバリー／初期状態に戻す方法について
『取扱説明書 2章 パソコンを再セットアップするには』

- ハードディスク／SSDや記録メディアに保存しているデータは、万が一故障が起きた場合や、変化／消失した場合に備えて定期的にバックアップをとって保存してください。ハードディスク／SSDや記録メディアに保存した内容の損害については、当社はいっさいその責任を負いません。

バックアップが必要なデータ

バックアップをとることを推奨するデータには、次のようなものがあります。

- 自分で作成したデータ（文書、画像、映像、音楽など）
- 送受信したメール
- メールのアドレス帳
- インターネットの［お気に入り］

■Microsoft IMEで登録した単語について

日本語入力システムMicrosoft IMEの「ユーザー辞書ツール」で登録したユーザー辞書データについて、バックアップをとることができます。
詳しくは「ユーザー辞書ツール」のヘルプを確認してください。

- ヘルプの起動方法

①通知領域のIMEのアイコン（あ／A）*1を右クリックし、表示されたメニューから［単語の追加］をクリックする

＊1 選択している入力モードによって、表示されるアイコンが異なります。

②表示された画面で［ユーザー辞書ツール］をクリックし、［ヘルプ］→［トピックの検索］をクリックする

■インターネット接続の設定情報について

インターネット接続の設定情報は、データのバックアップがとれません。
設定情報はプロバイダーから送られてきた書類に記載されています。書類を大切に保管し、設定に必要な情報を忘れないようにしてください。
書類が手元にない場合は、次のインターネットの設定を控えてください。

- ユーザーID
- パスワード
- メールアドレス
- メールパスワード
- プライマリDNSサーバー
- セカンダリDNSサーバー
- インターネットメールサーバー

など

1 ファイルやフォルダーのバックアップをとる

ファイルやフォルダーのバックアップをとる前に保存場所を確認してください。

ファイルやフォルダーの保存場所

ファイルやフォルダーは次の場所に保存されています。
これらのファイルやフォルダーは、そのままバックアップ用の記録メディアにコピーすることができます。

参照 記録メディアにバックアップのデータを書き込む場合「データのバックアップをとる(31ページ)」

自分で作成したファイルやフォルダー	保存時に指定した場所に保存されます。わかりやすい場所に保存してください。保存先を忘れた場合は、タスクバーの🔍で、探すことができます。
[ドキュメント] [お気に入り] [デスクトップ] など	[PC] -ハードディスク／SSD (C:) - [ユーザー] 内の各ユーザー名のフォルダーに保存されています。

1台のパソコンを複数のユーザーで使っている場合は、それぞれのユーザー名でサインインし、データのバックアップをとってください。
記録メディアに保存したデータのバックアップをとる場合は、いったんハードディスク／SSDに保存してから、バックアップ用の記録メディアにコピーすることをおすすめします。

■バックアップのデータをパソコン本体に戻す

バックアップをとった［ドキュメント］、［お気に入り］、［デスクトップ］を利用する方法を説明します。

①タスクバーの［エクスプローラー］ボタン（📁）をクリックする
②[PC]［→ハードディスク／SSD（C:）をダブルクリックする
③[ユーザー］フォルダーをダブルクリックする
④データを利用するユーザーのフォルダーをダブルクリックする
⑤バックアップをとった記録メディアをセットする
⑥手順⑤でセットした記録メディア内に保存されている［ドキュメント］、［お気に入り］、［デスクトップ］などのフォルダーを、手順④のユーザーのフォルダー内にコピーする
メッセージが表示されたら、確認してボタンをクリックしてください。それぞれのフォルダーが上書きされます。

役立つ操作集

Windowsのバックアップ機能（ファイル履歴）

Windowsの「ファイル履歴」機能を使うと、指定したファイルを定期的にスキャンして、外付けのハードディスク／SSDドライブやネットワーク上の共有フォルダーなどへ継続的にコピーして、復元することができます。
指定できるファイルは、「エクスプローラー」の［ライブラリ］、［デスクトップ］、［お気に入り］、［連絡先］などに保存されているデータです。
Windowsの「ファイル履歴」機能を設定する画面は、次の手順で表示することができます。
①タスクバーにある検索ボックスに「コントロール パネル」と入力する
②検索結果に表示される［コントロール パネル］をクリックする
③［ファイル履歴でファイルのバックアップコピーを保存］をクリックする
　表示された画面で各種設定を行ってください。

インターネット上のサービスでバックアップをとる

＊バックアップナビクラウド搭載モデルのみ
「バックアップナビクラウド」は、簡単な操作でパソコンの写真や動画、音楽などをオンラインストレージサービスの「OneDrive」または「Dropbox」にバックアップができるアプリケーションです。
「バックアップナビクラウド」を利用するには、インターネットに接続する必要があります。
また、「OneDrive」の場合はMicrosoft アカウントを、「Dropbox」の場合はDropboxアカウントを事前に取得してください。

2 バックアップ用に使用できる記録メディア

バックアップ用に使用できる記録メディアは次のようなものがあります。

- 記録用のCD／DVD／ブルーレイディスク
- USBフラッシュメモリやSDメモリカードなどの記録メディア

お使いのモデルによって、使用できる記録メディアが異なります。また、ファイルやフォルダーの容量によって、使用する記録メディアを選び、あらかじめ用意してください。

参照 使用できる記録メディアについて『活用編 1章 パソコンの機能を活用する』、『取扱説明書 付録』

3 バックアップ方法

ここでは、SDメモリカード、USBフラッシュメモリなどに、データをコピーしてバックアップをとる方法について説明します。

CD／DVD／ブルーレイディスクにデータを書き込む方法もあります。*1

*1 ドライブを搭載していないモデルの場合は、外付けの書き込み可能なCD／DVD／ブルーレイディスクドライブ（市販品）が必要です。ただし、すべての外付けCD／DVD／ブルーレイディスクドライブでの動作を保証するものではありません。

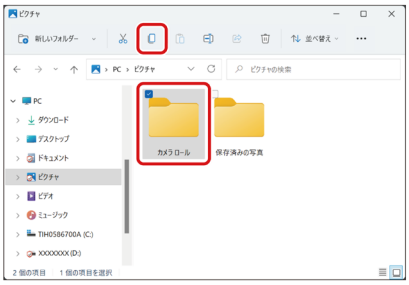
1 データのバックアップをとる

SDメモリカード、USBフラッシュメモリなどにフォルダーやファイルをコピーします。

1. 記録メディアをセットする

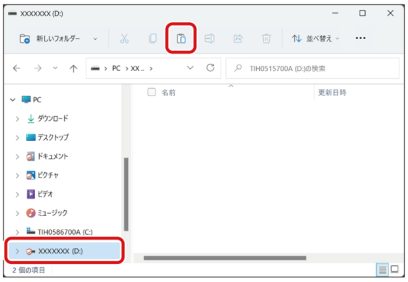
参照『活用編 1章 パソコンの機能を活用する』

2. データが保存してあるフォルダーをクリックして、［コピー］（ ）をクリックする



（表示例）

3. 記録メディアをクリックして、［貼り付け］（ ）をクリックする



（表示例）

4 バックアップをとる（Windowsが起動しないとき）

＊dynabook ファイルレスキュー搭載モデルのみ

ここでは、Windowsが起動しない状態でのバックアップ方法について説明します。

参照 dynabook データ復旧センター（有料）『取扱説明書 4章 2 サービス＆サポートのご案内』

1 dynabook ファイルレスキューについて

「dynabook ファイルレスキュー」を使うと、Windowsが起動しなくても、データのバックアップ＝救助（レスキュー）をすることができます。

Windowsが起動せず、リカバリーをしなくてはならない場合などは、「dynabook ファイルレスキュー」を使って、あらかじめデータを救助しておいてください。

お願い **データを救助するにあたって**

- パソコンを人に譲るときなどに、ハードディスク／SSDの内容をすべて消去すると、「システム回復オプション」は消去され、「dynabook ファイルレスキュー」は使用できなくなります。
- 本ソフトウェアは、ハードディスク／SSD上のすべてのファイルの救助、復元を保証するものではありません。当社は、いかなる場合においても、本ソフトウェアの使用によって生じたデータの損害についていっさいの責任を負わないものとします。
- ハードディスク／SSDが破損している場合、またはハードディスク／SSD上のファイルが破損している場合は、救助、復元することができません。
- 「dynabook ファイルレスキュー」は、OSが起動しないときに、ハードディスク／SSD上のファイルを別の保存用記録メディアへ退避するためのものです。その他の用途では使用しないでください。
- データを救助するとき、データ保存用の記録メディアは、パソコンの電源を入れる前にセットしてください。電源を入れたあとにセットすると正しく認識されないことがあります。
- プログラムファイル、またはプログラム用のデータファイルを救助しても、復元後に正常に動作することを保証できません。
- 著作権保護、またはコピープロテクションによって保護されたファイルを救助しても、復元後に正常に動作することを保証できません。
- システム属性を持つファイル、および、暗号化されたファイルは救助できません。暗号化されたハードディスク／SSDからは、救助できません。これらの救助できないファイルは、救助対象を選択、または確認する一覧の中に表示されません。
- データを救助するときはすべてのユーザーのユーザーデータを一度に救助することができますが、データを復元するときは1回の復元実行によって1つのユーザーアカウント分のデータだけを復元します。復元したファイルは、復元処理を実行したユーザーアカウントの所有ファイルとなります。ファイルの所有者となるユーザーアカウントでサインインし、復元処理を実行してください。
- 復元実行中にスリープ／休止状態へ移行する操作を行わないでください。
- データ保存用の記録メディアとしてCD／DVD／ブルーレイディスクを使用するときは、データを確実に救助するために、新しい記録メディアを使用することをおすすめします。

データの救助用に使用できる記録メディア

「dynabook ファイルレスキュー」では、記録メディアにデータを救助します。使用できる記録メディアは、次のとおりです。

- USB接続型などの外付けハードディスク／SSDドライブ（市販品）
- USBフラッシュメモリ
- CD／DVD／ブルーレイディスク*1

＊1 光学ドライブを搭載していないモデルでCD／DVD／ブルーレイディスクにバックアップをとる場合、外付けの書き込み可能なCD／DVD／ブルーレイディスクドライブ（市販品）が必要です。
ただし、すべての外付けCD／DVD／ブルーレイディスクドライブでの動作を保証するものではありません。
Thunderbolt™（USB Type-C™）コネクタを搭載しているモデルで、外付けのCD／DVD／ブルーレイディスクドライブ（市販品）を使用する場合は、USB Type-Aコネクタへ接続してください。
Thunderbolt™（USB Type-C™）コネクタへ接続すると、光学ドライブが認識されない場合があります。

1 データを救助する

＊この操作は、本マニュアルを参照しながら実行することはできません。
必ず本項目のページを印刷してから実行してください。

次の操作の途中で、デバイスの暗号化の回復キーの入力を求められることがあります。次の操作を行う前に、デバイスの暗号化の回復キーを確認してください。

参照 「回復キーを確認する（21ページ）」
（本機能に対応しているモデルにのみ記載があります。）

①電源コードとACアダプターを接続する
②救助するデータの保存先となる記録メディアをパソコンにセットする
USBフラッシュメモリの場合はUSBコネクタに差し込んでください。

参照 USB対応機器やCD／DVD／ブルーレイディスクを本製品にセットする場合
『活用編 1章 パソコンの機能を活用する』

参照 外付けのCD／DVD／ブルーレイディスクドライブの場合
『CD／DVD／ブルーレイディスクドライブに付属している説明書』

③電源スイッチを押し、すぐに 0（ゼロ）キー（かな入力の わキー）を数回押す
＊テンキー搭載モデルの場合でも、テンキーの 0（ゼロ）キーからは実行できません。
パスワードの画面が表示されたら、パスワードを入力して ENTERキーを押してください。
「The Hard Drive Recovery Process has been selected.」などから始まるメッセージが表示された場合は、手順④に進んでください。
［オプションの選択］画面が表示された場合は、手順⑤に進んでください。
④「Yes」（「YES」）または「はい」を選択して、ENTERキーを押す
⑤［トラブルシューティング］を選択する
⑥［dynabook Maintenance Utility］を選択する
回復キーを入力する画面が表示された場合は、手順⑦に進んでください。
［ツールの選択］画面が表示された場合は、手順⑧に進んでください。
⑦回復キーを入力して［続行］をクリックする
［このドライブをスキップする］は選択しないでください。
⑧［dynabook File Rescue］を選択し、［次へ］ボタンをクリックする
「dynabook ファイルレスキュー」が起動します。

⑨「免責事項」と「使用上のご注意」を確認し、同意される場合は、［はい、同意します。］を選択し、［次へ］ボタンをクリックする
同意しないと、操作を先に進めることはできません。
⑩救助するデータを指定する
- すべてのユーザーのユーザーデータを救助したい場合は、初期設定のまま、［次へ］ボタンをクリックします。
ユーザーデータとは、［PC］-ハードディスク／SSD（C:）-［ユーザー］内の各ユーザー名のフォルダーに保存されるファイルやフォルダーです。「ユーザー名」フォルダーにはアドレス帳やお気に入りなどのデータが保存されています。ユーザーデータの内容は、［救助データの一覧］で確認してください。
- 救助するファイルやフォルダーを、任意に指定したい場合は、次の操作を行います。
1.［任意のファイルやフォルダを手動で指定する］にチェックを付け、［次へ］ボタンをクリックする
2.救助したいファイルやフォルダーにチェックを付け、［次へ］ボタンをクリックする
救助するデータの大きさを計算している画面が表示される場合があります。
計算が完了すると、救助するデータの保存先を指定する画面が表示されます。
⑪救助データの保存先を指定し、［次へ］ボタンをクリックする
外付けハードディスク／SSDドライブまたはUSBフラッシュメモリの容量が足りない場合や、記録メディアを何もセットしていない場合などは、赤い字でメッセージが表示されます。メッセージに従って、適切な記録メディアを選択してください。
⑫救助するデータと保存先を確認し、［実行］ボタンをクリックする
⑬［はい］ボタンをクリックする
救助には、長時間かかることがあります。必ず電源コードとACアダプターを接続した状態でご利用ください。
救助中は保存先の記録メディアを取りはずさないでください。
データの救助が完了すると、完了画面が表示されます。
⑭必要に応じて［救助結果］ボタンや［復元手順］ボタンをクリックし、最後に［完了］ボタンをクリックする
- ［救助結果］ボタンをクリックすると、ファイル単位で救助の結果を表示します。
このとき、ファイルが壊れているなどの理由で救助できなかったデータがあると、そのファイル名の左に赤い「×」が表示されます。
- ［復元手順］ボタンをクリックすると、救助データを復元する手順を表示します。

［完了］ボタンをクリックすると、電源が切れます。

参照 引き続き、リカバリーを行う場合「パソコンを初期状態に戻す（27ページ）」

標準ユーザーのアカウントでデータを復元するときは管理者ユーザーの認証が必要になります。リカバリーをするときは、Microsoft アカウントのPINやパスワードは、必ず控えてください。

参照 Windowsセットアップ『スタートアップガイド』

2 救助したデータを復元する

「dynabook ファイルレスキュー」で救助したデータの復元方法は、次のとおりです。

①パソコンの電源を入れ、Windowsを起動する
　このとき、データを復元したいユーザーアカウントでサインインしてください。
②データを保存した記録メディアをパソコンにセットする
③タスクバーの［エクスプローラー］アイコン（）をクリックする
　「エクスプローラー」が起動します。
④画面左側の［PC］をクリックし、記録メディアのドライブのアイコンをダブルクリックする
⑤「DFRescue」ファイルをダブルクリックする
　標準ユーザーのアカウントで復元プログラムを実行するときは、管理者ユーザーの認証が必要です。
　復元するファイルを選択する画面が表示された場合は、手順⑥に進んでください。
　［ようこそ］画面が表示された場合は、手順⑦に進んでください。
⑥復元するファイルを選択し、［OK］ボタンをクリックする
　ファイル名の「DSal」以降の数字は、救助を実行した年月日と時刻を示しています。よく確認して復元したいファイルを選択してください。
⑦「免責事項」と「使用上のご注意」を確認し、同意される場合は、［はい、同意します。］を選択し、［次へ］ボタンをクリックする
　同意しないと、操作を先に進めることはできません。
　復元データを指定する画面が表示された場合は手順⑧に進んでください。
　復元データを確認する画面が表示された場合は手順⑨に進んでください。
⑧復元したいユーザーデータを選択し、［次へ］ボタンをクリックする
⑨復元するデータを確認し、［実行］ボタンをクリックする
⑩［はい］ボタンをクリックする
　復元が完了すると、データ復元完了の画面が表示されます。
⑪必要に応じて［復元結果］ボタンをクリックし、最後に［完了］ボタンをクリックする
　［復元結果］ボタンをクリックすると、ファイル単位で復元結果を表示します。
　パソコンのハードディスク／SSD内のどこに復元されたかを確認することができます。

Memo **復元データ**

- 復元データと同じファイルが復元先にある場合、復元データのファイル名の先頭に「_（アンダーバー）」が付きます。
- ユーザーデータ以外の任意のファイルやフォルダーを救助して復元した場合、次の場所に保存されます。
　（例）・救助時にハードディスク／SSD（C:）に保存されていたデータ：
　「C:¥ユーザー¥［ユーザー名のフォルダー］¥C」の中

5 個人用ファイルを保持して、初期状態に戻す（回復）

OSに搭載されている「回復」ツールを使用すれば、個人用ファイルを保持したままパソコンを初期状態に戻すことができます。ただし、初期状態に戻したとき、一部のアプリケーションや設定などが消去されることがあります。
次のような場合で、どうしても改善する方法がないときに行ってください。

- パソコンの動作が非常に遅くなった
- 周辺機器が使えなくなった
- ハードディスク／SSDにあるシステムファイルを削除してしまった
- コンピューターウイルスやスパイウェアなどに感染し、駆除できない*1
- パソコンの調子がおかしく、いろいろ試したが解消できない
- dynabook あんしんサポートに相談した結果、「個人用ファイルを保持して、初期状態に戻すことが必要」と診断された

＊1 ウイルスチェック／セキュリティ対策ソフトが正常に起動できない場合など、状態によってはウイルスチェックができない場合があります。

一度この操作を始めると、途中で中止したり、パソコンの電源を切ることができません。時間がかかりますので、時間の余裕をもって行ってください。

お願い

- 市販のソフトウェアを使用してパーティションの構成を変更すると、パソコンを初期状態に戻せなくなることがあります。
- 方法によっては、ユーザー権限にかかわらず、誰でも実行できます。誤ってほかの人に初期状態に戻されないように、ユーザーパスワードを設定しておくことをおすすめします。

参照 ユーザーパスワードの設定『活用編 2章 認証機能を設定する』

■消去される内容

「個人用ファイルを保持する」を選択して初期状態に戻すと、次のものが消去されます。

- 本製品を購入後にインストールしたアプリケーション（「Microsoft Store」からインストールしたアプリケーションを含む）
  たとえば、プレインストールされていないプリンタードライバーなど
- アプリケーションの設定

■消去されない内容

- ［ドキュメント］、［ピクチャ］、デスクトップ上のデータなど、ハードディスク／SSD上のファイル（［ごみ箱］内のファイルを除く）
- 本製品にプレインストールされているアプリケーション
- ユーザーアカウント
- インターネットや無線LAN／モバイルネットワークの接続設定
- デスクトップの設定（テーマや壁紙）
- ［設定］の個人用設定
- Windows Updateによる更新モジュール

1 操作前に行うこと

初期状態に戻す操作をはじめる前に、次の準備と確認を行ってください。

準備するもの

- 裏表紙の「リカバリーチェックシート」をコピーしたもの

アプリケーションのセットアップ用記録メディアを確認する

購入後に追加でインストールしたアプリケーションやプリンターなどの周辺機器のドライバーは、初期状態に戻すと再度インストールする必要があります。これらをインストールするための記録メディアが、お手元にあることを確認してください。また、アプリケーションによっては、認証キーの番号などが必要です。あらかじめ確認してください。

各種設定を確認する

ウイルスチェック／セキュリティ対策ソフトなど、セットアップ時に認証キーの入力が必要なアプリケーションは、認証キーの番号を控えておいてください。設定項目や認証キーの番号などの確認方法は、各アプリケーションのヘルプを参照するか、サポート窓口にお問い合わせください。
その他、必要に応じて、アプリケーションの設定を控えておいてください。

周辺機器を取りはずす

プリンターなどの周辺機器は取りはずしてください。このとき、パソコン本体の電源を切ってから行ってください。

参照▶『活用編 1章 パソコンの機能を活用する』

2 個人用ファイルを保持する

Windowsが起動する場合と起動しない場合とでは、手順が異なります。

1 Windowsが起動する状態で行う

次の操作は、管理者のユーザーアカウントで行う必要があります。
①電源コードとACアダプターを接続する
②管理者のユーザーアカウントでサインインする
③［スタート］ボタン（）をクリックする
④［設定］をクリックする
⑤［システム］→［回復］をクリックする
⑥［このPCをリセット］で［PCをリセットする］をクリックする
⑦［個人用ファイルを保持する］をクリックする
以降は、画面の指示に従って操作してください。この操作が終わるまで、絶対に電源を切らないでください。

2 Windowsが起動しない状態で行う

＊この操作は、本マニュアルを参照しながら実行することはできません。
必ず本項目のページを印刷してから実行してください。

次の操作の途中で、デバイスの暗号化の回復キーの入力を求められることがあります。次の操作を行う前に、デバイスの暗号化の回復キーを確認してください。

参照 「回復キーを確認する（21ページ）」
（本機能に対応しているモデルにのみ記載があります。）

次の操作は、ユーザー権限にかかわらず、誰でも実行できます。
①電源コードとACアダプターを接続する
②電源スイッチを押し、すぐに 0（ゼロ）キー（かな入力の わキー）を数回押す
＊テンキー搭載モデルの場合でも、テンキーの 0（ゼロ）キーからは実行できません。
パスワードの画面が表示されたら、パスワードを入力して ENTERキーを押してください。
「The Hard Drive Recovery Process has been selected.」などから始まるメッセージが表示された場合は、手順③に進んでください。
［オプションの選択］画面が表示された場合は、手順④に進んでください。
③「Yes」（「YES」）または「はい」を選択して、ENTERキーを押す
④［トラブルシューティング］をクリックする
⑤［このPCを初期状態に戻す］をクリックする
⑥［個人用ファイルを保持する］をクリックする
以降は、画面の指示に従って操作してください。
この操作が終わるまで、絶対に電源を切らないでください。

3 操作後に行うこと

周辺機器の接続、ウイルスチェック／セキュリティ対策ソフトの設定や更新、メールの再設定などを行ってください。

参照 裏表紙の「リカバリーチェックシート」

Memo ● 一部のアプリケーションは、初期状態に戻したあとに再インストールをする必要があります。

参照 「アプリケーションの再インストール（19ページ）」

6 パソコンを診断し、トラブルを解決する

さまざまな方法で、パソコンを診断したり、トラブルを解決できます。

1 「dynabook サービスステーション」で診断する

＊dynabook サービスステーション搭載モデルのみ

「dynabook サービスステーション」には、パソコンのハードウェアの状態を診断する「診断ツール」や、パソコンに発生する問題を特定し、解決することを支援する「トラブルシューティング」の機能があります。

インストールについて

「dynabook サービスステーション」がインストールされていない場合は、インストールをしてご使用ください。

参照 インストール方法「アプリケーションの追加（インストール）（16ページ）」

1 パソコンを診断する

「診断ツール」は、ハードウェアの状態を診断します。

1. 「dynabook サービスステーション」を起動する

①タスクバーにある検索ボックスに「dynabook サービスステーション」と入力する
②検索結果に表示される［dynabook サービスステーション］をクリックする

［サービスステーションのご利用にあたって］画面が表示された場合は、内容をよく確認のうえ、［同意する］をチェックし、［OK］ボタンをクリックしてください。

2. 画面左側から［診断ツール］をクリックする

3. 診断したい項目をクリックする

以降は画面の指示に従って操作してください。

2 トラブルを解決する

「トラブルシューティング」は、パソコンに発生する問題を特定し、解決することを支援します。

1. 「dynabook サービスステーション」を起動する

①タスクバーにある検索ボックスに「dynabook サービスステーション」と入力する
②検索結果に表示される［dynabook サービスステーション］をクリックする

［サービスステーションのご利用にあたって］画面が表示された場合は、内容をよく確認のうえ、［同意する］をチェックし、［OK］ボタンをクリックしてください。

2. 画面左側から［トラブルシューティング］をクリックする

3. 確認したい項目をクリックする

以降は画面の指示に従って操作してください。

2 Windowsの「トラブルシューティング」で調べる

＊この操作は、本マニュアルを参照しながら実行することはできません。
必ず本項目のページを印刷してから実行してください。

Windowsの「トラブルシューティング」には、パソコンを利用中に発生した問題を検出して、自動的に改善・修復する機能が用意されています。
パソコンを以前の状態に復元するための「システムの復元」機能は、「詳細オプション」の中にあります。
「システムの復元」は、パソコンに問題が発生したときに、個人用のデータを失わずにパソコンを以前の状態に復元するための機能です。ドライバーやシステムのアップデート中（更新中）にトラブルが発生した場合は、直前の正常に起動したときの状態に復元してください。

1. データを保存し、［スタート］ボタン（ ）をクリックする

2. ［設定］をクリックする

3. ［オプションの選択］画面を表示する

①［システム］→［回復］をクリックする
②［PCの起動をカスタマイズする］の［今すぐ再起動］をクリックする
③メッセージを確認して［今すぐ再起動］をクリックする

4. ［トラブルシューティング］をクリックする

［トラブルシューティング］画面が表示されます。

5. ［詳細オプション］をクリックする

［詳細オプション］画面が表示されます。

⑥ 使いたいメニュー名をクリックする

この後の操作は、メニューによって異なります。表示された画面の指示に従って操作してください。

3章 Q&A 集

トラブルの解決方法をQ&A形式で説明しています。

1 Q&A集

1 電源

Q 電源スイッチを押して指をはなしても、Power LEDが点灯しない

A 電源スイッチを押す時間が短いと電源が入らないことがあります。
確実に電源スイッチを押してください。Power LEDが点灯することを確認してください。

Q 電源が入るが、すぐに切れてしまう
電源が入らない

A バッテリーの充電量が少ない可能性があります。
次のいずれかの対処を行ってください。

- 本製品用の電源コードとACアダプターを接続し、30分程度充電してから電源を入れ直す（他製品用の電源コードとACアダプターは使用できません）
- 充電済みのバッテリーパックと取り換える*1

＊1 バッテリーパック搭載モデルのみ

参照 バッテリーパックを交換する『取扱説明書』

A パソコン内部の温度が一定以上に達すると保護機能が働き、システムが自動的に停止します。
パソコン本体が熱くなっている場合は、涼しい場所に移動するなどして、パソコンの内部温度が下がるまで待ってください。
また、パソコン本体に通風孔がある場合、通風孔をふさぐと、パソコンの温度は非常に上昇しやすくなります。通風孔のまわりには物を置かないでください。

A パソコン本体からいったん、電源コードとACアダプター、バッテリーパック*1をすべて取りはずしてください。

①電源コードとACアダプターを取りはずす
　パソコンに接続している周辺機器も取りはずしてください。
②バッテリーパック*1を取りはずす
　電源コードとACアダプター、バッテリーパック*1を取りはずし、そのままの状態で、しばらく放置してください。
③バッテリーパック*1を取り付ける
④電源コードとACアダプターを取り付けて、電源プラグをコンセントに差し込む
⑤電源スイッチを押し、指をはなす
　確実に電源スイッチを押してください。電源が入るとPower LEDが点灯します。
⑥それでも電源が入らない場合は、電源スイッチをさらに1回押す
　電源が入るとPower LEDが点灯します。
⑦10秒程度待って、なにも反応しない場合は、さらに1回電源スイッチを押す
　電源が入るとPower LEDが点灯します。
⑧それでも電源が入らない場合は、電源スイッチを18秒ほど長押しして、指をはなす
⑨再度電源スイッチを押す
　電源が入るとPower LEDが点灯します。

⑤～⑨の操作を行うと、内蔵時計がリセットされる場合があります。日付と時刻を設定し直してください。

以上の手順でも解決できない場合は、dynabook あんしんサポート 修理相談窓口に連絡してください。

＊1 バッテリーパック搭載モデルのみ

参照 電源コードとACアダプターの接続『取扱説明書』
参照 バッテリーパックの取り付け／取りはずし『取扱説明書』の「バッテリーパックを交換する」

Q 電源を入れたが、システムが起動しない

A 起動ドライブをハードディスク／SSD以外に設定した場合に、システムの入っていない記録メディアがセットされている可能性があります。

次の手順で操作してください。

①システムが入っている記録メディアをセットする
②電源スイッチを10秒以上（場合によっては18秒程度）押して電源を切る
③電源スイッチを押し、すぐに F12キーを数回押す
　パスワードの画面が表示されたら、パスワードを入力して ENTERキーを押してください。
④表示されたメニューから起動したいドライブ（通常はハードディスク／SSDを示す項目）を↑ ↓キーで選択し、ENTERキーを押す

Q 使用中に前触れもなく、突然電源が切れることがある

A バッテリー駆動で使用している場合、バッテリーの充電量がなくなった可能性があります。
次のいずれかの対処を行ってください。

- 本製品用の電源コードとACアダプターを接続し、充電する
  （他製品用の電源コードとACアダプターは使用できません）
- 充電済みのバッテリーパックと取り換える*1

＊1 バッテリーパック搭載モデルのみ

参照 バッテリーパックを交換する『取扱説明書』

A パソコン内部の温度が一定以上に達すると保護機能が働き、システムが自動的に停止します。
パソコン本体が熱くなっている場合は、涼しい場所に移動するなどして、パソコンの内部温度が下がるまで待ってください。
また、パソコン本体に通風孔がある場合、通風孔をふさぐと、パソコンの温度は非常に上昇しやすくなります。通風孔のまわりには物を置かないでください。
それでも電源が切れる場合は、dynabook あんしんサポート 修理相談窓口に連絡してください。

Q しばらく操作しないとき、電源が切れる

A Power LEDが点灯している場合、省電力機能が働いた可能性があります。
しばらくタッチパッド、マウス、キーボードなどを操作しないと、画面に表示される内容が見えなくなる場合があります。これは省電力機能が動作したためで、故障ではありません。
実際には電源が入っていますので、電源スイッチを押さないでください。
SHIFTキーを押すか、タッチパッド、マウスなどを動かすと表示が復帰します。
テレビまたは外部ディスプレイを接続している場合、表示が復帰するまでに10秒前後かかることがあります。

A Power LEDが消灯している場合、自動的にスリープまたは休止状態になった可能性があります。
一定時間パソコンを使用しないときに、自動的にスリープまたは休止状態にするように設定されています。
復帰させるには、電源スイッチを押してください。
また、次の手順で設定を解除できます。
①［スタート］ボタン（）をクリックする
②［設定］→［システム］をクリックする
③［電源とバッテリー］→［画面、スリープ、休止状態のタイムアウト］をクリックする
④次の各項目で［ ⌄ ］をクリックし、［なし］を選択する

- ［電源に接続］の［後で電源をオフにする］と［次の時間の経過後にデバイスをスリープ状態にする］
- ［バッテリ駆動］の［後で電源をオフにする］と［次の時間の経過後にデバイスをスリープ状態にする］

2 画面／表示

Q 青い画面（ブルースクリーン）または黒い画面（ブラックスクリーン）が表示され、操作できなくなった

A 電源スイッチを10秒以上（場合によっては18秒程度）押してWindowsを強制終了してください。
システムが操作できなくなったとき以外は行わないでください。強制終了を行うと、スリープ／休止状態は無効になります。また、保存されていないデータは消失します。
強制終了したあと、電源を入れ直してください。

A 以上の手順でも解決できない場合は、「Q 再起動や電源を入れ直しても、トラブルが解消しない（46ページ）」を確認してください。

Q しばらく放置したら、画面が真っ暗になった

A 省電力機能が働いた可能性があります。
しばらくタッチパッド、マウス、キーボードなどを操作しないと、画面に表示される内容が見えなくなる場合があります。これは省電力機能が動作したためで、故障ではありません。
実際には電源が入っていますので、電源スイッチを押さないでください。
SHIFTキーを押すか、タッチパッド、マウスなどを動かすと表示が復帰します。
テレビまたは外部ディスプレイを接続している場合、表示が復帰するまでに10秒前後かかることがあります。

Q テレビまたは外部ディスプレイを接続した状態で、パソコンをスリープや休止状態から復帰したとき、本体ディスプレイに何も表示されない

A テレビまたは外部ディスプレイに、画面表示が切り替わっている可能性があります。
テレビまたは外部ディスプレイの電源を入れて確認してください。パソコン画面が表示されていた場合は、本体ディスプレイに表示を切り替えてください。
参照 表示を切り替える『活用編』

Q テレビまたは外部ディスプレイを取りはずしたときに、画面が表示されなくなった

A テレビまたは外部ディスプレイを接続してください。
テレビまたは外部ディスプレイをメインディスプレイに指定して拡張表示の設定をした場合、スリープや休止状態のときにテレビまたは外部ディスプレイを取りはずすと、スリープや休止状態から復帰したときに画面が表示されないことがあります。
テレビまたは外部ディスプレイの取りはずしは、スリープや休止状態のときに行わないでください。

Q 画面が薄暗く、よく見えない

A FN ＋ F3キー、または FN ＋ F7キーのいずれかを押して、本体ディスプレイ（画面）を明るくしてください。
FN ＋ F2キー、または FN ＋ F6キーのいずれかを押して、本体ディスプレイ（画面）を暗くしてください。
＊モデルによって、画面の明るさの調整方法は異なります。
＊この設定は、テレビと外部ディスプレイには反映されません。

3 システムおよびハードディスク／SSD

Q パソコンが応答しなくなった

A アプリケーションを終了できない場合や、アプリケーションを終了してもトラブルが解消しない場合は、パソコンを再起動するか、完全にシャットダウンしてください。

参照 再起動／完全にシャットダウンする『取扱説明書 1章 パソコンの取り扱い』

タッチパッドやマウスなどで操作できない場合は、次の手順でキーボードを操作して再起動してください。

①CTRL ＋ ALT ＋ DELキーを押す
②TABキーを数回押して画面右下の［電源］（⏻）を選択し、ENTERキーを押す
③表示されたメニューから、↑ ↓キーを押して［再起動］を選択し、ENTERキーを押す
パソコンが再起動します。

A Windows起動時に問題が起きた場合や、パソコンを再起動したり、完全にシャットダウンできない場合は、電源スイッチを10秒以上（場合によっては18秒程度）押してWindowsを強制終了してください。

システムが操作できなくなったとき以外は行わないでください。強制終了を行うと、スリープ／休止状態は無効になります。また、保存されていないデータは消失します。

強制終了したあと、電源を入れ直してください。

A システムが処理中の可能性があります。

システム処理中は、操作を受け付けない場合があります。操作によっては、システム処理中はポインターが輪の形（◯）になっています。システムの処理が終わるまで待ってから操作してください。

Q 再起動や電源を入れ直しても、トラブルが解消しない

A アプリケーションをインストールしてから、この問題が発生するようになった場合は、インストールしたアプリケーションがWindowsの動作に影響している可能性があります。

アプリケーションをアンインストールしてください。

参照 アンインストール「アプリケーションの削除（アンインストール）（17ページ）」

A 周辺機器を接続してから、この問題が発生するようになった場合は、接続した周辺機器がWindowsの動作に影響している可能性があります。

周辺機器を取りはずしてください。周辺機器によっては、周辺機器に付属のドライバーやアプリケーションをパソコンにインストールしている場合があります。これらのドライバーやアプリケーションもアンインストールしてください。

参照 周辺機器の取り扱いについて『周辺機器に付属している説明書』

Q 起動ドライブを変更したい

A 起動するドライブを一時的に、本体のハードディスク／SSDから変更できます。
①データを保存し、SHIFTキーを押しながら［シャットダウン］をクリックして電源を切る
②電源スイッチを押し、すぐに F12キーを数回押す
パスワードの画面が表示されたら、パスワードを入力して ENTERキーを押してください。
③起動したいドライブを ↑ ↓キーで選択し、ENTERキーを押す
選択したドライブが一時的に起動優先ドライブとなり、起動します。
＊［HDD Recovery］は選択しないでください。HDD Recovery（HDDリカバリー）を実行すると、ハードディスク／SSD内に保存されているデータはすべて消去されます。

4 バッテリー

Q DC IN／Battery LEDがオレンジ色に点滅している

A バッテリーの充電量が残り少ない状態です。
ただちに次のいずれかの対処を行ってください。
- パソコン本体に電源コードとACアダプターを接続し、充電する
- 電源が切れている場合は、パソコン本体に電源コードとACアダプターを接続し、30分程度充電してから電源を入れ直す
- 電源を切ってから、フル充電のバッテリーパックと取り換える*1

＊1 バッテリーパック搭載モデルのみ

対処しないと、パソコン本体は自動的に電源を切り、保存されていないデータは消失します。データはこまめに保存しておいてください。
機種によっては、DC IN／Battery LED点滅時に警告音が鳴ります。

5 キーボード

＊タッチパネル搭載モデルの「タッチキーボード」を除く

Q キーボードに飲み物をこぼしてしまった

A 飲み物など液体がこぼれて内部に入ると、感電、本体の故障、作成データの消失などのおそれがあります。
もし、液体がパソコン内部に入ったときは、ただちに電源を切り、電源コードとACアダプター、バッテリーパック*1 を取りはずして、dynabook あんしんサポート 修理相談窓口にご相談ください。
＊1 バッテリーパック搭載モデルのみ

参照 バッテリーパックの取りはずし『取扱説明書』の「バッテリーパックを交換する」

Q キーボードから文字を入力しているときにカーソルがとんでしまう

A 文字を入力しているときに誤ってタッチパッドに触れると、カーソルがとんだり、アクティブウィンドウが切り替わってしまうことがあります。
次の手順でタッチパッドを無効にしてください。
①FN ＋ F5キーまたは FN ＋ F9キーを押す
＊モデルによって、タッチパッドの有効／無効の方法は異なります

6 タッチパネル／タッチパッド／マウス

＊タッチパネルは、タッチパネル搭載モデルのみ
＊マウスは、モデルによっては別売りです。

Q 電源を入れたあと、タッチパネルが反応しない
＊タッチパネル搭載モデルのみ

A タッチパネルに触れたまま電源を入れると、タッチパネルが一時的に反応しない場合があります。
タッチパネルに触れないで、しばらく待ってからお使いください。

Q 画面にタッチしても反応しない
＊タッチパネル搭載モデルのみ

A つめの先では操作できません。
指で操作してください。

A 手袋を着けたままでは操作できません。
手袋をはずして操作してください。

A 指が汗や水でぬれている状態では操作できません。
水分をふき取ってから操作してください。

A 画面に異物が付着している可能性があります。
保護フィルムを貼っている場合は、フィルムをはがしてください。

Q タッチパッドやマウスをクリックしても反応がない

A タッチパッドのみ操作を受け付けない場合、タッチパッドが無効に設定されている可能性があります。
次の手順でタッチパッドを有効にしてください。
①FN ＋ F5キーまたは FN ＋ F9キーを押す
＊モデルによって、タッチパッドの有効／無効の方法は異なります

A USB対応のマウスを接続したときに、タッチパッドによる操作が自動的に無効になるように設定されている可能性があります。
次の手順でタッチパッドを有効に切り替えてください。
①［スタート］ボタン（）をクリックする
②［設定］をクリックする
③［Bluetoothとデバイス］→［タッチパッド］をクリックする
④［タッチパッド］を［オン］にして、［ ⌄ ］をクリックする
⑤［マウスの接続時にタッチパッドをオフにしない］にチェックを付ける

7 メモリ

Q メモリ容量を確認したい

A メモリ容量は、［システム情報］画面の［物理メモリ］で確認できます。
次のいずれかの方法で確認してください。

■dynabook サービスステーション搭載モデルの場合

①タスクバーにある検索ボックスに「dynabook サービスステーション」と入力する
②検索結果に表示される［dynabook サービスステーション］をクリックする
③画面左側の［システム情報］をクリックする
④［物理メモリ］の数値を確認する

■dynabook サポートユーティリティ搭載モデルの場合

①タスクバーにある検索ボックスに「dynabook サポートユーティリティ」と入力する
②検索結果に表示される［dynabook サポートユーティリティ］をクリックする
③画面左側の［システム情報］をクリックする
④［物理メモリ］の数値を確認する

8 TPM（Trusted Platform Module）

＊TPM搭載モデルのみ

Q TPMを使用しているパソコンを、修理・保守に出したい

A TPMを使用している場合、修理・保守に出す前に、バックアップをとってください。
なお、修理・保守に出すと、TPMに故障がなくても、TPMが交換される場合があります。
修理・保守については、dynabook あんしんサポート 修理相談窓口に相談してください。
参照 サービス＆サポートのご案内『取扱説明書』

9 Intel® PTT

＊Intel® PTT搭載モデルのみ

Q Intel® PTTを使用しているパソコンを、修理・保守に出したい

A Intel® PTTを使用している場合、修理・保守に出す前に、バックアップをとってください。
修理・保守については、dynabook あんしんサポート 修理相談窓口に相談してください。
参照 サービス＆サポートのご案内『取扱説明書』

10 メッセージ

Q 起動時に下記のメッセージが表示され、Windowsが起動しない

- ****** Date and Time reset to default **** Press [F2] key to set Date and Time.**

A 時計用バッテリーが不足しています。

電源コードとACアダプターを接続後、次の手順でBIOSセットアップの日付と時刻を設定してください。

①F2キーを押す
②↑ ↓ ← →キーを使って、［System Time］を選択する
③TABキーを使って、時間、分、秒を選択後、F6、F7キーで時刻を設定する
＊モデルによっては数字キーで設定します
④↑ ↓ ← →キーを使って、［System Date］を選択する
⑤TABキーを使って、月、日、年を選択後、F6、F7キーで日付を設定する
＊モデルによっては数字キーで設定します
⑥F10キーを押す
⑦ENTERキーを押して[Yes]を選択する
設定内容が有効になり、BIOSセットアップが終了します。
パソコンが再起動します。

BIOSセットアップの基本操作については、BIOS編をご確認ください。
参照▶『BIOS編 1章 BIOSセットアップを使う 「基本操作」』

メッセージが表示されたまま1分以上経過すると、自動的に電源が切れます。
電源スイッチを押し、すぐにF2キーを数回押して、BIOSセットアップを起動し、日付と時刻を設定してください。
設定しても内蔵時計が合わなくなる場合は、バッテリーの機能が低下している可能性があります。dynabook あんしんサポート 修理相談窓口に相談してください。

Q「システムの日付または時刻が無効です」と表示された

A 日付と時刻を設定してください。

Windows Updateやアプリケーションのセットアップを行う場合は、正しい日付と時刻を設定してから行ってください。
日付と時刻の設定方法は、次の手順で検索し、確認してください。
①タスクバーの 🔍 をクリックし、入力欄に「日付と時刻の設定」と入力して検索する

Q 次のようなメッセージが表示された

- **「Insert system disk in drive.Press any key when ready」**
- **「No bootable device - Please restart system」**
- **「Default Boot Device Missing or Boot Failed」**

A システム（OS）が破損、またはハードディスク／SSDの内容が消去された可能性があります。

電源スイッチを10秒以上（場合によっては18秒程度）押して、強制的に電源を切った（強制終了）あと、「dynabook リカバリーメディアクリエーター」で作成したリカバリーメディア、または付属のリカバリーDVD-ROM（付属しているモデルのみ）を使って、本製品を初期状態に戻してください（リカバリー）。
参照▶ リカバリーメディアからパソコンを初期状態に戻す『取扱説明書』

Q 電源を入れたときに下記のメッセージが表示された

・Swipe finger to authorize access, or press BACKSPACE to enter BIOS password.
または
・Touch finger to authorize access, or press BACKSPACE to enter BIOS password.

A 指紋認証が必要です。

起動認証機能を有効に設定していると、パスワードを設定している場合に表示されるメッセージの代わりに、指紋認証を行う画面が表示されます。指紋認証を行うと、パスワードを入力する代わりに指紋で認証が行われます。

認証を5回失敗する、または *BACKSPACE* キーを押すと、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。この場合は、キーボードからパスワードを入力してください。

参照 指紋認証を行う『活用編』

Q パスワード（Password）の入力をうながすメッセージが表示された

A パスワードの入力による認証が必要です。

次の操作を行ってください。

■方法1

①パスワードを入力し、*ENTER* キーを押す

■ 方法2*

＊dynabook セッティングにて、システムパスワードの設定が可能なモデルのみ

①dynabook セッティング搭載モデルの場合、あらかじめ「dynabook セッティング」の「システムパスワード」でパスワードファイルを作成してあるときは、パスワードファイルで確認したパスワードを入力し、*ENTER* キーを押す

パスワードを入力するときは、CAPS LOCK（キャプスロック）やNUM LOCK（数字ロック）などが、パスワード設定時と同じ状態になっていることを確認してください。

パスワードを忘れてしまって、パスワードを解除できなくなった場合は、使用している機種（型番）を確認後、次のサポート窓口に連絡してください。

- Microsoft アカウントのパスワードやPINを忘れたとき：
  dynabook あんしんサポート使いかた相談窓口
- その他のパスワードを忘れたとき：
  dynabook あんしんサポート修理相談窓口

モデルによってはHDD／SSDパスワードを設定できますが、HDD／SSDパスワードを忘れてしまった場合は、ハードディスク／SSDは使用できなくなりますので、有料にてハードディスク／SSDを交換します。

「その他のパスワード」の場合は、有料にてパスワードを解除します。その際、パスワードの種類によっては、お客様のデータが失われる場合があります。

またどちらの場合も、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

参照 パスワードの詳細『活用編 2章 認証機能を設定する』

Q その他のメッセージが表示された

A『使用しているシステムやアプリケーションに付属している説明書』を参照してください。

11 その他

Q ハードディスク／SSDからパソコンを初期状態に戻せなくなったときは

A ハードディスク／SSDに搭載されている初期状態に戻すためのツール（システムを復元するためのもの）のデータが破損、もしくは誤って消去されている可能性があります。
また、市販のソフトウェアを使用してパーティションの構成を変更すると、パソコンを初期状態に戻せなくなることがあります。
「dynabook リカバリーメディアクリエーター」で作成したリカバリーメディア、または付属のリカバリーDVD-ROM（付属しているモデルのみ）を使って、リカバリーしてください。

参照 リカバリーメディアからパソコンを初期状態に戻す『取扱説明書』

リカバリーメディアがない場合は、修理が必要になる可能性があります。dynabook あんしんサポート 修理相談窓口に相談してください。

参照 サービス＆サポートのご案内『取扱説明書』

Q 異常なにおいや過熱に気づいた

A パソコン本体、周辺機器の電源を切り、電源コードの電源プラグをコンセントから抜いてください。安全を確認し、バッテリーパック搭載モデルの場合はバッテリーパックをパソコン本体から取りはずしてからdynabook あんしんサポート 修理相談窓口に相談してください。
なお、お問い合わせの際には次のことを伝えてください。

- 使用している機器の名称
- 購入年月日
- 現在の状態（できるだけ詳しく連絡してください）

参照 サービス＆サポートのご案内『取扱説明書』

Q 甲高い音がする

A ハウリングを起こしています。
ハウリングとは、スピーカーから出た音がマイクに入り再びスピーカーに返されることで、音が増幅し発生する高く大きな音のことです。
使用するアプリケーションによっては、外部マイクとスピーカーとでハウリングを起こすことがあります。
次の方法で調整してください。

- 外部マイクをパソコン本体から遠ざける
- パソコン本体の音量ボタン、音量ミキサー、または[FN] ＋ [3]キー／[FN] ＋ [4]キー*1で音量を調整する

＊1 モデルによって、[FN] ＋ [F9]キー／[FN] ＋ [F10]キーまたは、[FN] ＋ [F7]キー／[FN] ＋ [F8]キーを使用します。
モデルによって、音量の調整方法は異なります。

参照 スピーカーの音量調整『活用編 1章 パソコンの機能を活用する』

- 使用しているソフトウェアの設定を変える

Q パソコンの近くにあるテレビやラジオの調子がおかしい

A 次の操作を行ってください。

- テレビ、ラジオの室内アンテナの方向を変える
- テレビ、ラジオに対するパソコン本体の方向を変える
- パソコン本体をテレビ、ラジオから離す
- テレビ、ラジオのコンセントとは別のコンセントを使う
- 受信機に屋外アンテナを使う

Q 顔認証でサインインできない

＊顔認証センサー搭載モデルのみ

A 顔認証以外（PINなど）でサインインを行ってください。

- 顔認証がエラーになった場合は、顔の情報の登録をやり直してください。

参照 顔の情報を登録する『活用編』

- しばらく顔認証でサインインを行わないと、顔認証センサーの動作が停止するためです。故障ではありません。

Q 指紋認証でサインインできない

＊指紋センサー搭載モデルのみ

A 指紋認証以外（PINなど）でサインインを行ってください。
指紋認証のエラーが続く場合は、指紋の登録をやり直してください。

参照 指紋を登録する『活用編』

Q 操作できない原因がどうしてもわからない

A「トラブルを解消するまでの流れ」を確認してください。
本書の「トラブルを解消するまでの流れ」では、トラブルを解決するための対処手順を説明しています。ご確認ください。

参照 「トラブルを解消するまでの流れ（25ページ）」のSTEP2以降

A パソコン本体のトラブルの場合は、dynabook あんしんサポートに連絡してください。

A OSやアプリケーションのトラブルの場合は、各アプリケーションのサポート窓口にお問い合わせください。

参照 OSやアプリケーションのお問い合わせ先『取扱説明書 4章 サポート関連のご案内』

A 周辺機器のトラブルの場合は、各周辺機器のサポート窓口にお問い合わせください。

参照 周辺機器のお問い合わせ先『周辺機器に付属している説明書』

付録

無線LAN／Bluetooth®の規格や特性、使用上のご注意などについて説明しています。

1 無線LAN／Bluetooth®について

＊無線LAN機能については、無線LAN機能搭載モデルのみ対象となります。
＊Bluetooth®機能については、Bluetooth®機能搭載モデルのみ対象となります。

1 無線LANの規格

無線LAN（無線LANモジュール）には通信速度や使用している周波数帯によって、複数の規格が存在します。
本製品には、IEEE802.11a、IEEE802.11b、IEEE802.11g、IEEE802.11n、IEEE802.11ac、IEEE802.11ax、IEEE802.11beのすべて、もしくはその一部に準拠した無線LANが搭載されています。
参照 本製品に搭載されている無線LANの規格の確認方法「無線LANモジュールの確認（60ページ）」
本書では、搭載された無線LANの種類によって説明が異なる項目があります。

■無線LANの仕様

無線周波数帯	IEEE802.11ax IEEE802.11be	6GHz（5925-6425MHz）
	IEEE802.11a IEEE802.11n IEEE802.11ac IEEE802.11ax IEEE802.11be	5GHz（5150-5350MHz、および5470-5725MHz）
	IEEE802.11b IEEE802.11g IEEE802.11n IEEE802.11ax IEEE802.11be	2.4GHz（2400-2483MHz）
変調方式	IEEE802.11ax IEEE802.11be	直交周波数分割多元接続方式（OFDMA方式）
	IEEE802.11a IEEE802.11g IEEE802.11n IEEE802.11ac	直交周波数分割多重方式（OFDM方式）
	IEEE802.11b	直接拡散方式（DSSS方式）

無線LANアクセスポイントや無線機器と通信を行うには、どちらも同じ規格に準拠している必要があります。

2 無線LANのサポートする周波数帯域

無線LANがサポートする6GHz帯／5GHz帯／2.4GHz帯のチャネルは、国／地域で適用される無線規制によって異なる場合があります。
5GHz帯無線LANは、W52/W53/W56チャネルをサポートしています。



＊6LはIEEE 802.11ax、IEEE802.11beのみ利用可能

■無線IEEE802.11チャネルセット

- 6GHz帯：5955-6415MHz（20MHzシステム）、5965-6405MHz（40MHzシステム）、5985-6385MHz（80MHzシステム）、6025-6345MHz（160MHzシステム）（IEEE802.11ax、IEEE802.11beの場合）、6105-6265MHz（320MHzシステム）（IEEE802.11beの場合）

＊モデルによって対応していない場合があります

	チャネルID	周波数(MHz)
20MHzシステム	1	5955
	5	5975
	9	5995
	13	6015
	17	6035
	21	6055
	25	6075
	29	6095
	33	6115
	37	6135
	41	6155
	45	6175
	49	6195
	53	6215
	57	6235
	61	6255
	65	6275
	69	6295
	73	6315
	77	6335
	81	6355
	85	6375
	89	6395
	93	6415

	チャネルID	周波数(MHz)
40MHzシステム	3	5965
	11	6005
	19	6045
	27	6085
	35	6125
	43	6165
	51	6205
	59	6245
	67	6285
	75	6325
	83	6365
	91	6405
80MHzシステム	7	5985
	23	6065
	39	6145
	55	6225
	71	6305
	87	6385
160MHzシステム	15	6025
	47	6185
	79	6345
320MHzシステム	31	6105
	63	6265

Memo

- 本製品は電波法・電気通信事業法の認証済みモジュールを内蔵していますが、電波法により6GHz（LPI）の使用は屋内のみに制限されます（5.2GHz帯高出力データ通信システムの基地局や中継局との通信を除く）。

● 5GHz帯：5150-5350MHzおよび、5470-5725MHz
（IEEE802.11a、IEEE802.11n、IEEE802.11ac、IEEE802.11ax、IEEE802.11beの場合）

	チャネルID	周波数 (MHz)
W52	36	5180
	40	5200
	44	5220
	48	5240
W53	52	5260
	56	5280
	60	5300
	64	5320
W56	100	5500
	104	5520
	108	5540
	112	5560
	116	5580
	120	5600
	124	5620
	128	5640
	132	5660
	136	5680
	140	5700

アクセスポイント側のチャネル（W52/W53/W56）に合わせて、そのチャネルに自動的に設定されます。

Memo
- W52、W53は電波法令により屋外で使用することはできません。
- インフラストラクチャ通信でのアクセスポイントへの接続は、Ch36，Ch40，Ch44，Ch48，Ch52，Ch56，Ch60，Ch64，Ch100，Ch104，Ch108，Ch112，Ch116，Ch120，Ch124，Ch128，Ch132，Ch136，Ch140で使用できます。

● 2.4GHz帯：2400-2483MHz（IEEE802.11b/g、IEEE802.11n、IEEE802.11ax、IEEE802.11beの場合）

チャネルID	周波数 (MHz)
1	2412
2	2417
3	2422
4	2427
5	2432
6	2437
7	2442
8	2447
9	2452
10	2457
11	2462
12	2467
13	2472

Memo ● インフラストラクチャ通信は、Ch1～Ch13で使用できます。

3 Bluetooth®の仕様

ワイヤレス通信	通信方式	Bluetooth® Specification Ver.5.0／5.1／5.3／5.4準拠＊
	無線周波数帯	2.4GHz（2402～2480MHz）
	変調方式	周波数ホッピング方式　2値FSK

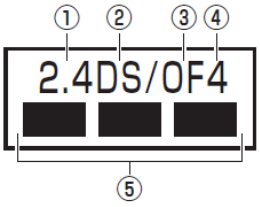
＊モデルによって対応しているバージョンが異なる場合があります

4 使用上のご注意

日本では、本製品を第二世代小電力データ通信システムに位置付けており、その使用周波数帯は2400MHz～2483.5MHzです。この周波数帯は、移動体識別装置（移動体識別用構内無線局および移動体識別用特定小電力無線局）の使用周波数帯2427MHz～2470.75MHzと重複しています。
この周波数では電子レンジなどの産業・科学・医療機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ラインなどで使用されている免許を要する移動体識別用の構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア無線局など（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。

1. この機器を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万が一、この機器と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかにこの機器の使用チャンネルを変更するか、使用場所を変えるか、または機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
3. その他、電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、dynabookあんしんサポート 使いかた相談窓口へお問い合わせください。

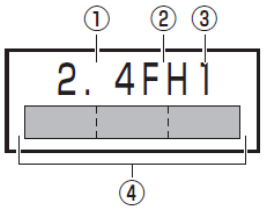
■無線LAN



（表示例）

① 2.4 ： 2400MHz帯を使用する無線設備を表す。
② DS ： 変調方式がDS-SS方式であることを示す。
③ OF ： 変調方式がOFDM方式であることを示す。
④ 4 ： 想定される与干渉距離が40m以下であることを示す。
⑤ ■■■ ： 2400MHz～2483.5MHzの全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能であることを意味する。

■Bluetooth®



（表示例）

① 2.4 ： 2400MHz帯を使用する無線設備を表す。
② FH ： 変調方式がFH-SS方式であることを示す。
③ 1 ： 想定される与干渉距離が10m以下であることを示す。
④  ： 2400MHz～2483.5MHzの全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避不可であることを意味する。

5 無線特性

無線LANおよびBluetooth®の無線特性は、製品を購入した国／地域、購入した製品の種類により異なる場合があります。
多くの場合、無線通信は使用する国／地域の無線規制の対象になります。国／地域によって使用が規制されています。無線ネットワーク機器は、無線免許の必要ない6GHz、5GHzおよび2.4GHz帯で動作するように設計されていますが、国／地域の無線規制により無線ネットワーク機器の使用に多くの制限が課される場合があります。
無線機器の通信範囲と転送レートには相関関係があります。無線通信の転送レートが低いほど、通信範囲は広くなります。

Memo

- アンテナの近くに金属面や高密度の固体があると、無線デバイスの通信範囲に影響を及ぼすことがあります。
- 無線信号の伝送路上に無線信号を吸収または反射し得る"障害物"がある場合も、通信範囲に影響を与えます。

6 無線LANモジュールの確認

本製品に搭載されている無線LANモジュールの種類は、「デバイス マネージャー」を使って確認できます。

1. [スタート] ボタン（ ）を右クリックする

＊ キーを押したまま X キーを押しても同じ画面を表示できます

2. [デバイス マネージャー] をクリックする

[デバイス マネージャー] 画面が表示されます。

3. [ネットワーク アダプター] をダブルクリックする

アダプター名が表示されます。

4. アダプター名を確認する

アダプター名が示すモジュールは、それぞれ次のようになります。

＊ 下記モジュールはすべて、Bluetooth®ワイヤレステクノロジーに対応しています。

- 「Intel(R) Wi-Fi 7 BE211 320MHz」の場合
  - IEEE802.11a、IEEE802.11n、IEEE802.11ac、IEEE802.11ax
  - IEEE802.11b、IEEE802.11g、IEEE802.11be

  に対応したモジュールです。
- 「Intel(R) Wi-Fi 7 BE201 320MHz」の場合
  - IEEE802.11a、IEEE802.11n、IEEE802.11ac、IEEE802.11ax
  - IEEE802.11b、IEEE802.11g、IEEE802.11be

  に対応したモジュールです。
- 「Intel(R) Wi-Fi 7 BE200 320MHz」の場合
  - IEEE802.11a、IEEE802.11n、IEEE802.11ac、IEEE802.11ax
  - IEEE802.11b、IEEE802.11g、IEEE802.11be

  に対応したモジュールです。
- 「RZ717 WiFi 7 160MHz」の場合
  - IEEE802.11a、IEEE802.11n、IEEE802.11ac、IEEE802.11ax
  - IEEE802.11b、IEEE802.11g、IEEE802.11be

  に対応したモジュールです。
- 「RZ616 WiFi 6E 160MHz」の場合
  - IEEE802.11a、IEEE802.11n、IEEE802.11ac、IEEE802.11ax
  - IEEE802.11b、IEEE802.11g

  に対応したモジュールです。
- 「Intel(R) Wi-Fi 6E AX211 160MHz」の場合
  - IEEE802.11a、IEEE802.11n、IEEE802.11ac、IEEE802.11ax
  - IEEE802.11b、IEEE802.11g

  に対応したモジュールです。
- 「Intel(R) Wi-Fi 6 AX201 160MHz」の場合
  - IEEE802.11a、IEEE802.11n、IEEE802.11ac、IEEE802.11ax
  - IEEE802.11b、IEEE802.11g

  に対応したモジュールです。

- 「Intel(R) Wi-Fi 6 AX200 160MHz」の場合
  - IEEE802.11a、IEEE802.11n、IEEE802.11ac、IEEE802.11ax
  - IEEE802.11b、IEEE802.11g

  に対応したモジュールです。
- 「Qualcomm FastConnect 7800 Wi-Fi Dual Band Simultaneous (DBS) Network Adapter」の場合
  - IEEE802.11a、IEEE802.11n、IEEE802.11ac、IEEE802.11ax
  - IEEE802.11b、IEEE802.11g、IEEE802.11be

  に対応したモジュールです。
- 「MTK@Wi-Fi 6 MT7921LSN」の場合
  - IEEE802.11a、IEEE802.11n、IEEE802.11ac、IEEE802.11ax
  - IEEE802.11b、IEEE802.11g

  に対応したモジュールです。

7 機器認証表示について

本製品は、電波法および電気通信事業法の認証を受けた無線設備である場合と、認証を受けた無線設備を搭載している場合があります。
いずれの場合も本製品を使用するときに無線局の免許は必要ありません。
ただし、以下の行為は電波法の規定に抵触するおそれがありますので、十分にご注意ください。

- 無線設備として認証を受けている場合　　：本製品を分解・改造して使用すること
- 認証を受けた無線設備を搭載している場合：
  組み込まれた無線設備をほかの機器へ流用すること
  （本製品に組み込まれた無線設備は、本製品に実装して使用することを前提に、小電力データ通信システムの無線局として工事設計の認証を取得しているため）

8 お知らせ

無線製品の相互運用性

■無線LAN

本製品に搭載されている無線LANは、Direct Sequence Spread Spectrum（DSSS）／Orthogonal Frequency Division Multiplexing（OFDM）無線技術を使用する無線LAN製品と相互運用できるように設計されており、次の規格に準拠しています。

- Institute of Electrical and Electronics Engineers（米国電気電子技術者協会）策定のIEEE802.11 Standard on Wireless LANs（Revision a/b/g/n/ac/ax/be*）

＊モデルによって対応している規格が異なる場合があります

■Bluetooth®

本製品に搭載されているBluetooth®は、Frequency Hopping Spread Spectrum（FHSS）無線技術を使用するBluetooth® ワイヤレステクノロジーを用いた製品と相互運用できるように設計されており、次の規格に準拠しています。

- Bluetooth® Special Interest Group策定のBluetooth® Specification Ver.5.0／5.1／5.3／5.4*
- Bluetooth® Special Interest Groupの定義するBluetooth® ワイヤレステクノロジーのLogo認証

＊モデルによって対応しているバージョンが異なる場合があります

Memo

- 本製品はすべてのBluetooth® ワイヤレステクノロジーを用いた機器との接続動作を確認したものではありません。ご使用にあたっては、Bluetooth® ワイヤレステクノロジーを用いた機器対応の動作条件と接続の可否情報を取扱元にご確認ください。

また下記の取り扱い上の注意点があります。

(1)　Bluetooth® Version1.0B仕様のBluetooth® ワイヤレステクノロジーを用いた機器とは互換性がありません。
(2)　2.4GHz帯の無線LANが近距離で使用されていると通信速度の低下または通信エラーが発生する可能性があります。
(3)　Bluetooth®と無線LANは同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、無線LANの設定にて使用する無線周波数帯を変更してください。

健康への影響

本製品に搭載されている無線LANおよびBluetooth®は、ほかの無線製品と同様、無線周波の電磁エネルギーを放出します。しかしその放出エネルギーは、携帯電話などの無線機器と比べるとはるかに低いレベルにおさえられています。
本製品に搭載されている無線LANおよびBluetooth®の動作は無線周波に関する安全基準と勧告に記載のガイドラインにそっており、安全にお使いいただけるものと考えております。この安全基準および勧告には、学会の共通見解と、多岐にわたる研究報告書を継続的に審査、検討している専門家の委員会による審議結果がまとめられています。
ただし周囲の状況や環境によっては、建物の所有者または組織の責任者が無線LANおよびBluetooth®の使用を制限する場合があります。次にその例を示します。

- 飛行機の中で無線LANおよびBluetooth®を用いた装置を使用する場合
- ほかの装置類またはサービスへの電波干渉が認められるか、有害であると判断される場合

個々の組織または環境（空港など）において無線機器の使用に関する方針がよくわからない場合は、無線通信機能をONにする前に、個々の組織または施設環境の管理者に対して、本製品の使用可否について確認してください。

規制に関する情報

本製品に搭載されている無線LANのインストールと使用に際しては、必ず製品付属の説明書に記載されている製造元の指示に従ってください。本製品は、無線周波基準と安全基準に準拠しています。

9 使用できる国／地域について

海外で無線通信機能を使用する場合は、使用される国／地域の無線規格を取得している必要があります。
無線規格を取得していない国／地域では、パソコン本体の無線通信機能をOFFにしてください。

参照 無線通信機能をOFFにする方法『活用編』の「無線LANで接続する」